

VMware.5V0-35.21.v2024-02-02.q75

試験コード:	5V0-35.21
試験名称:	VMware vRealize Operations Specialist
認定資格:	VMware
無料問題数:	75
バージョン:	v2024-02-02
アクセス数:	392
ページビュー数:	750
https://www.jpnpdf.com/VMware.5V0-35.21.v2024-02-02.q75-mondaishu.html	

最新問題: 1

vRealize Operations クラスタで高可用性を有効にするために必要な 2 つのオプションはどれですか? (2つお選びください。)

- A. データ ノードのみがオンラインである必要があります。
- B. クラスタには少なくとも 1 つのプライマリ ノードが必要です。
- C. プライマリ ノードのみがオンラインである必要があります。
- D. クラスタには少なくとも 1 つのデータ ノードが必要です。
- E. クラスタには少なくとも 2 つのデータ ノードが必要です。

Answer: ([解答を表示する](#))

vRealize Operations クラスタで高可用性 (HA) を有効にするには、次の 2 つのオプションが要件です。

クラスタには少なくとも 1 つのプライマリ ノードが必要です。プライマリ ノードはクラスタにデプロイされる最初のノードであり、クラスタ構成、ユーザー インターフェイス、および管理機能の管理を担当します。プライマリ ノードもデータを保存し、他のデータ ノードと同様に分析を実行します。プライマリ ノードがないと、クラスタは適切に機能できません¹。

クラスタには少なくとも 1 つのデータ ノードが必要です。データ ノードは、さまざまなソースからデータを収集し、ローカル ファイル システムにデータを保存し、分析およびアラート機能を実行するノードです。データ ノードは、クラスタのロード バランシングとデータ レプリケーションにも参加します。HA をアクティブにするには、プライマリ ノードに加えて、少なくとも 1 つのデータ ノードを展開する必要があります。これにより、障害が発生した場合にプライマリ ノードの機能を引き継ぐことができるレプリカ ノードを作成できます²。参考資料: 1: vRealize Operations High Availability について 2: High Availability (HA)

最新問題: 2

アラート通知の特性を正確に説明しているステートメントはどれですか?

- A. 通知はすぐに使用できるように構成されていますが、vRealize Operations によって検出されたオブジェクトごとに明示的に有効にする必要があります。
- B. 電子メール通知を有効にするには、SMTP 管理パックが必要です。
- C. 通知はアラートの症状定義の一部として構成されます。
- D. vRealize Operations は、アウトバウンド アラート プラグインを構成することで、外部アラート通知システムに接続できます。

Answer: (解答を表示する)

アラート通知は、特定の基準を満たすアラートが生成されたときに vRealize Operations が外部システムまたはユーザーに送信するメッセージです。アラート通知は、管理者が問題が発生した直後に特定してトラブルシューティングを行うのに役立ちます。アラート通知を有効にするには、管理者はアウトバウンド アラート プラグインを構成する必要があります。これは、vRealize Operations を電子メール、REST、SNMP、ログ ファイルなどの外部アラート通知システムに接続するコンポーネントです。管理者は、サポートされている送信アラート プラグインに対してどのアラートを送信するかを指定するフィルターである通知ルールを作成することもできます¹。他のオプションは、アラート通知の特性を正確に説明したものではありません。オプション A は不正解です。通知はすぐに設定できる設定ではなく、管理者が送信アラート プラグインと通知ルールを設定する必要があります。また、通知は、vRealize Operations によって検出されたオブジェクトごとに明示的に有効にする必要はありませんが、通知ルール 1 に基づいて複数のオブジェクトに適用できます。オプション B は不正解です。電子メール通知を有効にするために SMTP 管理パックは必要ではなく、1 つ以上の電子メール アドレスに通知を送信する組み込みの送信アラート プラグインである標準電子メール プラグインが必要です。オプション C は不正解です。通知はアラートの症状定義の一部として構成されず、1 つ以上のアラートに適用される別個の構成として構成されます。シンプトン定義は、オブジェクトの潜在的な問題を示す条件であり、通知ではなくアラートをトリガーするために使用されます³。

参考資料: 1: vRealize Operations アラート通知の作成と管理 - VMware ドキュメント 2: vRealize Operations での標準電子メール通知の構成 3: 症状の定義 - VMware ドキュメント

最新問題: 3

複数のハードウェア障害により、いくつかの仮想マシンが破損しており、最近のバックアップから復元されています。破損した仮想マシンの 1 つは、大規模な本番環境の vRealize Operations Manager クラスタのプライマリ レプリカ ノードでした。

システム管理者は、vRealize Operations Manager 内でこの可用性の問題をどのように解決する必要がありますか？

- A. 新しい vRealize Operations Manager ノードをデプロイし、既存のクラスタに追加します。
- B. 既存のプライマリ vRealize Operations Manager ノードのクローンを作成し、それを vRealize Operations Manager クラスタに追加します。
- C. 破損したノードを削除し、vRealize Operations Manager High Availability を無効にしてから再度有効にして、プライマリ レプリカのロールをクラスタ内の別の既存のノードに再割り当てします。

D. バックアップ管理者に、破損したプライマリ レプリカ ノードをリストアし、vRealize Operations Manager 管理者インターフェイスからノードを更新するように依頼します。

Answer: C ([メッセージを残す](#))

最新問題: 4

管理者は仮想インフラストラクチャの問題を発見し、トリガーされたアラートを解決するための指示を取得しました。

管理者はどのアラート コンポーネントを使用しましたか？

- A. しきい値
- B. 症状
- C. 推奨事項
- D. 再利用

Answer: ([解答を表示する](#)**)**

『VMware vRealize Operations User Guide1』によると、アラートとは、監視対象環境における潜在的な問題または既存の問題を示す通知です。アラートは次のコンポーネントで構成されます。

しきい値: メトリックまたはプロパティの通常の範囲を定義する値。値がしきい値を超えるか下回ると、症状が発生します。

症状: オブジェクトの通常の動作からの逸脱を示す状態。症状は、メトリック、プロパティ、メッセージ、または障害に基づく場合があります。症状は 1 つ以上のアラート定義に関連付けることができます。

アラート定義: アラートを生成する基準と重大度を定義するルール。アラート定義では、症状、影響を受けるオブジェクトタイプ、アラートタイプ、およびアラートサブタイプを指定します。

推奨事項: アラートをトリガーした問題の解決または防止に役立つ推奨アクション。推奨事項には、ドキュメント内の関連トピックへのリンクまたは外部 URL を含めることができます。アラート定義には 1 つ以上の推奨事項を含めることができます。

したがって、正解はCです。

これは、トリガーされたアラートを解決するための指示を提供するアラート コンポーネントであるため、推奨事項。参考文献:

1: VMware vRealize Operations ユーザー ガイド、

<https://docs.vmware.com/en/vRealize-Operations/8.5/vrealize-operations-manager-85-user-guide.pdf>、19-21 ページ

最新問題: 5

管理者は、高可用性構成で vRealize Operations クラスタを展開する任務を負っています。

この要件を満たすために管理者が展開できるノード サイズは 3 つありますか？ (3つお選びください。)

- A. 大
- B. 小
- C. 中
- D. 標準

E. 極小

Answer: ([解答を表示する](#))

vRealize Operations では、さまざまな環境やスケーラビリティのニーズに合わせてクラスタを展開するときに、さまざまなノードサイズを使用できます。通常、サイズには小、中、大が含まれ、これらのサイズによって高可用性構成の各ノードの容量とパフォーマンスが決まります。

参考文献:

vRealize Operations クラスタ ノードについて

高可用性 (HA)

vRealize Operations 8.6.0、8.6.1、および 8.6.2 のサイジング ガイドライン

最新問題: 6

Active Directory から vRealize Operations にグループをインポートするときに、グループメンバーが vRealize Operations オブジェクトにアクセスできるようにするには、何を定義する必要がありますか？

- A. 説明
- B. 役割
- C. グループメンバー
- D. タイプ

Answer: ([解答を表示する](#))

ロールは、Active Directory から vRealize Operations にグループをインポートするときに、グループメンバーが vRealize Operations オブジェクトにアクセスできるようにするために定義する必要がある属性です。ロールは、ユーザーまたはグループがダッシュボード、アラート、レポート、ポリシーなどの vRealize Operations オブジェクトに対して実行できるアクションを定義する一連の権限です。グループにロールを割り当てることで、管理者はすべてのグループメンバーに対して vRealize Operations オブジェクトへのアクセスを許可または制限できます。説明、グループメンバー、およびタイプは、Active Directory から vRealize Operations にグループをインポートするときに、グループメンバーが vRealize Operations オブジェクトにアクセスできることを保証する属性ではありません。説明は、グループに関する追加情報を提供するオプションのフィールドです。グループメンバーは、グループに属するユーザーのリストです。タイプは、ローカル、LDAP、Active Directory などのソースに基づくグループの分類です。参照: ソースからのユーザー グループのインポート、セクション「ソースからのユーザー グループのインポート」。vRealize Operations Manager ユーザー ガイド、セクション「ダッシュボードの作成と構成」。

最新問題: 7

管理者は vRealize Operations を使用して、vSphere データセンター内の容量を最適化しています。管理者は、ホーム画面ナビゲーションの「再利用」ビューの下に表示される再利用のメインカテゴリを使用します。

このビューで管理者が利用できる 3 つの主要なカテゴリはどれですか？ (3つお選びください。)

- A. 未使用のデータストア
- B. 孤立したディスク
- C. スナップショット
- D. パワーオフされた VM
- E. VM ディスクの使用率は %10 以下です
- F. 未使用のホスト

Answer: ([解答を表示する](#))

ホーム画面ナビゲーションの [再利用] ビューで管理者が利用できる再利用の 3 つの主なカテゴリは、孤立したディスク、スナップショット、およびパワーオフの VM です。再利用ビューは vRealize Operations の機能で、管理者はストレージ、CPU、メモリなど、環境内の無駄になっているリソースまたは未使用のリソースを特定して再利用することができます¹。[再利用] ビューには、各カテゴリの潜在的な節約量と、リソースを再利用するために実行できるアクションが表示されます。孤立ディスク カテゴリには、どの仮想マシンにも関連付けられておらず、ストレージ領域を解放するために削除できる仮想ディスクが表示されます²。スナップショット カテゴリには、指定された期間より古いスナップショットが表示されます。これらのスナップショットは、ストレージ領域を解放してパフォーマンスを向上させるために削除できます³。パワーオフされた VM カテゴリには、指定された期間を超えてパワーオフになっている仮想マシンが表示されます。これらの仮想マシンは、ストレージ、CPU、およびメモリ リソースを解放するために削除またはアーカイブすることができます⁴。未使用のデータストア カテゴリ (オプション A) は、無駄なリソースや未使用のリソースの発生源ではないため、[再利用] ビューで使用できる再利用の主要なカテゴリではありません。未使用のデータストアは、仮想マシンまたはホストによって使用されていないデータストアであり、インベントリから削除したり、他のオブジェクトに割り当てたりすることができます⁵。VM ディスク使用率 %10 以下のカテゴリ (オプション E) は、無駄なリソースや未使用のリソースの発生源ではないため、[再利用] ビューで使用できる再利用の主要なカテゴリではありません。使用率 %10 以下の VM ディスクは、使用率が低い仮想ディスクであり、サイズを変更して割り当てられた記憶域スペースを減らすことができます⁶。未使用のホスト カテゴリ (オプション F) は、無駄なリソースや未使用のリソースの発生源ではないため、[再利用] ビューで使用できる再利用の主要なカテゴリではありません。未使用のホストは、仮想マシンまたはクラスターによって使用されていないホストであり、インベントリから削除したり、他のオブジェクトに割り当てたりすることができます。参考文献:

- 1: 『vRealize Operations Manager ユーザー ガイド』、VMware、2021 年、p. 77.
- 2: 『vRealize Operations Manager ユーザー ガイド』、VMware、2021 年、p. 78.
- 3: 『vRealize Operations Manager ユーザー ガイド』、VMware、2021 年、p. 79.
- 4: 『vRealize Operations Manager ユーザー ガイド』、VMware、2021 年、p. 80.
- 5: 『vRealize Operations Manager ユーザー ガイド』、VMware、2021 年、p. 81.
- 6: 『vRealize Operations Manager ユーザー ガイド』、VMware、2021 年、p. 82.
- [7]: 『vRealize Operations Manager ユーザー ガイド』、VMware、2021 年、p. 83.

スーパー メトリックのデータ収集を開始する前に、どの手順が必要ですか？

- A. オブジェクトで有効にする
- B. オブジェクト タイプで有効にする
- C. アラートで有効にする
- D. ポリシーで有効にする

Answer: B ([メッセージを残す](#))

最新問題: 9

What-If 分析を実行するときに、どのクラウド プロバイダーをカスタム クラウド プロバイダーとして追加する必要がありますか？

- A. IBM クラウド
- B. Microsoft Azure
- C. Oracle Cloud
- D. Google Cloud

Answer: C ([メッセージを残す](#))

最新問題: 10

企業のデータセンターで実行されている vSphere 環境から一部のワークロードをパブリック クラウドに移行するプロジェクトが計画されています。vSphere 環境は vRealize Operations によって監視されています。

管理者は、パブリック クラウドでワークロードを実行するための毎月のコスト見積もりを取得するように求められました。

vRealize Operations の What-If プランニングですぐに使用できるパブリック クラウド プロバイダーのうち、パブリック クラウドのコストを計画している 2 つのプロバイダーはどれですか？ (2 つお選びください。)

- A. アリババクラウド
- B. Salesforce クラウド
- C. Google Cloud
- D. Microsoft Azure
- E. Oracle クラウド

Answer: C,D ([メッセージを残す](#))

最新問題: 11

顧客は複数の vRealize Operations (vROps) インスタンスを使用しており、ダッシュボードを作成するための中央開発 vROps インスタンスが 1 つあります。管理者は、新しく作成したダッシュボードを他の vROps インスタンスと共有する役割を担っており、ダッシュボードは他のインスタンスで編集可能である必要があります。

この目標を達成するには、管理者はどのアクションを実行する必要がありますか？

- A. 開発インスタンスからダッシュボードをエクスポートし、他のインスタンスにダッシュボードをインポートします。

- B. vROps インスタンスを接続し、ダッシュボードを同期します。
- C. カスタム URL を生成し、有効期限を「無期限」に設定し、この URL を他のインスタンスにインポートします。
- D. [埋め込み] オプションを使用して、HTML コードを他のインスタンスにインポートします。

Answer: A (メッセージを残す)

最新問題: 12

管理者は、容量モデリングに vRealize Operations を使用して、残り時間と残り容量スコアを増やすためにさらに何台の ESXi サーバーが必要かを判断しています。

この目標を達成するには何をすればよいでしょうか？

- A. What-If 分析
- B. サイズの適正化
- C. 操作の概要
- D. ワークロードの最適化

Answer: A (メッセージを残す)

What-If 分析は、仮想インフラストラクチャのワークロードまたは容量要件の増減を計画できる vRealize Operations の機能です。What-If 分析を使用して、リソースの容量の需要と供給を評価し、現在の容量に対する潜在的なリスクを評価できます。ワークロード、ホスト、クラスター、またはデータストアを追加および削除するシナリオを作成し、残り時間と残り容量のスコアへの影響を確認できます¹²。

残り時間と残り容量は、環境内で利用可能な容量を測定する 2 つの指標です。残り時間は、現在の使用率と増加傾向に基づいて、リソースの容量がなくなるまでの推定時間です。残りの容量は、将来の拡張に使用できる未使用の容量の割合です。どちらの指標も、CPU、メモリ、ディスク容量、およびネットワーク帯域幅のリソースに対して計算されます³⁴。

What-If 分析を使用すると、残り時間と残り容量のスコアを増やすためにさらに何台の ESXi サーバーが必要かを判断するという目標を達成できます。ESXi サーバーをクラスターまたはデータセンターに追加するシナリオを作成し、サーバーの数、タイプ、構成を指定できます。サーバーを追加した後、クラスターまたはデータセンターの予測残り時間と残り容量のスコアを確認できます。結果を現在のスコアおよび推奨スコアと比較することもできます。希望のスコアに達するまでサーバーの数を調整できます⁵。

参考文献:

1: What-If 分析: ワークロード、キャパシティ、または移行計画のモデリング 2: What-If シナリオの作成 3:

[容量の概要 - VMware ドキュメント] 4: [残り時間と残り容量のメトリック] 5: [クラスターまたはデータセンター シナリオへのホストの追加]: [What-If シナリオの結果の表示]: vRealize

Operations Manager ユーザー ガイド: vRealize Operations Manager のインストールおよび構成ガイド: [vRealize Operations Manager 概念ガイド]: [vRealize Operations Manager 管理ガイド]: [vRealize Operations Manager カスタマイズおよび拡張性ガイド]: [vRealize Operations Manager トラブルシューティング ガイド]:

[vRealize Operations Manager API プログラミング ガイド] : [vRealize Operations Manager 認定試験ガイド]

最新問題: 13

管理者は、総所有コストとアプリケーションのパフォーマンスを可視化するために、プロジェクトのカスタム ダッシュボードを作成しました。ダッシュボード内のデータは、仮想マシンの単一のリストから取得される必要があります。

ただし、オペレーターがリスト ビュー内の仮想マシンをクリックしても、他のウィジェットは更新されません。

この問題を解決するには、管理者はどのようなアクションをとるべきですか？

- A. ダッシュボード共有を構成する
- B. [コンテンツを更新] オプションを有効にします。
- C. オブジェクト関係ウィジェットを構成します
- D. ウィジェット間の相互作用を構成します

Answer: ([解答を表示する](#))

VMware vRealize Operations Reference Materials によると、ウィジェット間の相互作用により、環境内のオブジェクト間の依存関係を示すデータを表示できます。たとえば、別のウィジェットからのデータのプロバイダーまたはレシーバーとして機能するようにウィジェットを構成できます。プロバイダー ウィジェットでオブジェクトを選択すると、レシーバー ウィジェットが更新され、そのオブジェクトに関連するデータが表示されます。この場合、リスト ビュー ウィジェットをプロバイダーとして構成し、ダッシュボード上の他のウィジェットをレシーバーとして構成する必要があります。こうすることで、オペレーターがリスト ビューで仮想マシンをクリックすると、他のウィジェットにその仮想マシンに関連するデータが表示されます。したがって、選択肢 D が正しいです。

他のオプションは、リスト ビューでの選択に基づいてウィジェットを更新する問題とは関係がないため、正しくありません。選択肢 A は不正解です。ダッシュボード共有は、ダッシュボードまたはダッシュボード テンプレートを 1 つ以上のユーザー グループと共有できるようにする機能ですが、ウィジェットの操作には影響しません。オプション B は不正解です。[コンテンツの更新] オプションは、ウィジェット内のデータを手動または自動で更新できるようにする設定ですが、ウィジェットの操作には影響しません。選択肢 C は不正解です。オブジェクト関係ウィジェットは、環境内のオブジェクト間の関係 (親子関係、兄弟関係、ピア関係など) を示すウィジェットの一種ですが、ウィジェットの相互作用には関連していません。参考文献:

ダッシュボードの作成と構成

ダッシュボード

vRealize Operations ダッシュボードを簡単に - パート 3-5 ダッシュボードの作成 vRealize Operations Cloud で優れたダッシュボードを構築 - パート 1

最新問題: 14

vRealize Operations で Service Discovery を使用すると、新しいサービスはどのくらいの頻度で検出されますか？

- A. 15 分ごと
- B. 1 時間ごと
- C. 24 時間ごと
- D. 5 分ごと

Answer: ([解答を表示する](#))

最新問題: 15

vRealize Operations でサポートされているクラウド アカウント タイプは次の 2 つですか? (2 つお選びください。)

- A. Microsoft Azure
- B. Horizon 接続サーバー
- C. Google クラウド プラットフォーム
- D. vRealize Automation
- E. vCenter Server

Answer: A,E ([メッセージを残す](#))

クラウド アカウントは、vRealize Operations がクラウド プラットフォームまたはサービスからデータを収集できるようにする構成です。vRealize Operations は、データのソースと、クラウド プラットフォームまたはサービスへの接続に使用されるアダプタのタイプに応じて、さまざまなタイプのクラウド アカウントをサポートします¹。サポートされているクラウド アカウント タイプのうちの 2 つは、Microsoft Azure と vCenter Server です。

Microsoft Azure は、コンピューティング、ストレージ、ネットワーキング、データベース、分析、セキュリティなどのさまざまなサービスを提供するクラウド プラットフォームです。vRealize Operations は、Azure Monitor サービスからデータを収集するアダプターである Microsoft Azure Management Pack を使用して Microsoft Azure に接続できます。Microsoft Azure クラウド アカウントには、Azure アカウントの認証情報とサブスクリプション ID、および vRealize Operations² によって監視されるリソース グループとリージョンが必要です。

vCenter Server は、ESXi、NSX-T Data Center、vSAN、HCX などの VMware プライベート クラウド コンポーネントを管理するプラットフォームです。vRealize Operations は、vCenter Server API からデータを収集するアダプタである vSphere ソリューションを使用して vCenter Server に接続できます。vCenter Server クラウド アカウントには、vCenter Server インスタンスの認証情報と IP アドレスまたは FQDN、およびデータ収集と処理のオプションを決定する詳細設定が必要です³。

他のオプションは、vRealize Operations でサポートされているクラウド アカウント タイプではありません。Horizon Connection Server は、VMware Horizon 仮想デスクトップ インフラストラクチャを管理するプラットフォームですが、クラウド アカウント タイプではありません。vRealize Operations は、Horizon アダプタを使用して Horizon 接続サーバーに接続できます。これは、クラウド アカウントの構成を必要としない別個のアダプタです⁴。Google Cloud Platform は、コンピューティング、ストレージ、ネットワーキング、データベース、分析、セキュリティなどのさまざまなサービスを提供するクラウド プラットフォームですが、クラウド アカウント タイプではありません。vRealize Operations は、Google Cloud Monitoring サービスからデータを収集

するアダプタである Google Cloud Platform Management Pack を使用して Google Cloud Platform に接続できます。Google Cloud Platform Management Pack はクラウド アカウント構成を使用しませんが、サービス アカウント構成を使用します。これにはサービス アカウント キーファイルとプロジェクト ID が必要です。

vRealize Automation は、複数のクラウドにわたる IT サービスの配信と管理を自動化するプラットフォームですが、クラウド アカウント タイプではありません。vRealize Operations は、vRealize Automation API からデータを収集するアダプタである vRealize Automation Management Pack を使用して vRealize Automation に接続できます。vRealize Automation Management Pack はクラウド アカウント構成を使用しませんが、vRealize Automation インスタンス構成を使用します。これには、認証情報と、vRealize Automation インスタンスの IP アドレスまたは FQDN が必要です。

参考資料: 1: クラウド アカウント 2: vRealize Operations での Microsoft Azure クラウド アカウントの構成 3: vRealize Operations での vCenter Server クラウド アカウントの構成 4: Horizon アダプタ:

[vRealize Operations で Google Cloud Platform のサービス アカウントを構成する]: [vRealize Operations で vRealize Automation インスタンスを構成する]

最新問題: 16

ユーザーは、いくつかのアプリケーション VM のパフォーマンスが非常に遅いと報告しています。システム管理者は、VM および/または ESXi ホスト レベルの両方で問題の原因を突き止めるように要求されました。vRealize Operations は Application Remote Collector を使用して構成されていません。

管理者が根本的な問題を迅速に特定するのに役立つアクションはどれですか？

- A. [インベントリ] で [エージェントの管理] を選択し、VM を選択して、ICMP チェックと HTTP チェックでリモートチェックを実行します。
- B. [レポート] で、[構成レポート - 仮想マシン] を使用して、発生した可能性のある変更をリストします。
- C. [管理] で、[構成]、[オブジェクト関係] の順に選択し、VM と ESXi ホストの関係を特定してメトリックの相関関係を生成し、最後に問題を特定します。
- D. [ダッシュボード] で、VM と ESXi ホストの両方の競合を表示する、すぐに使えるパフォーマンス ダッシュボードを選択します。

Answer: D (メッセージを残す)

『vRealize Operations User Guide1』によると、遅いアプリケーション VM の根本的な問題を迅速に特定する最良の方法の 1 つは、VM と ESXi ホストの両方の競合を表示する、すぐに使用できるパフォーマンス ダッシュボードを使用することです。これらのダッシュボードには、選択したオブジェクトの CPU、メモリ、ディスク、ネットワークの主要パフォーマンス指標 (KPI) が表示され、パフォーマンスに影響を与える可能性のある競合や飽和の問題が強調表示されます。管理者は、これらのダッシュボードを使用して、メトリック、アラート、イベント、オブジェクトのプロパ

ティの詳細をドリルダウンし、問題の根本原因を特定できます。他のオプションは次の理由により正しくありません。

[インベントリ] で、[エージェントの管理] を選択し、VM を選択し、ICMP でリモート チェックを実行します。HTTP チェックは、VM の接続と可用性を検証するだけで、パフォーマンスや競合に関する情報は提供しないため、役に立ちません。VM または ESXi ホストの 2。

[レポート] で、構成レポート - 仮想マシンを使用して、発生した可能性のある変更をリストアップすることは、名前、UUID、電源状態、ゲスト OS、CPU、メモリなどの VM の構成の詳細しか表示されないため、役に立ちません。ディスクとネットワークは表示されますが、VM または ESXi ホストのパフォーマンス、競合メトリック、アラートは表示されません³。

[管理] で [構成] を選択し、[オブジェクトの関係] を選択して、VM と ESXi ホストの関係を特定してメトリックの相関関係を生成し、最後に問題を切り分けるという操作は、VM 間の階層的および論理的な関係を示すだけであるため、役に立ちません。親、子、兄弟、ピアなどのオブジェクトを表示しますが、オブジェクトのパフォーマンスや競合メトリック、アラートは表示されません⁴。参照: 1: vRealize Operations ユーザー ガイド、57 ~ 59 ページ、62 ~ 632 ページ: vRealize Operations ユーザー ガイド、69 ~ 703 ページ: vRealize Operations ユーザー ガイド、81 ~ 824 ページ: vRealize Operations ユーザー ガイド、84 ~ 85 ページ。

有効な **5V0-35.21** 問題集は GoShiken.com が提供された合格しやすい 5V0-35.21 試験問題集！ GoShiken.com が最新の **5V0-35.21** 試験問題集を提供しています。GoShiken.com 5V0-35.21 試験問題は最新で、解答が正確でございます。最新の GoShiken.com 5V0-35.21 問題集をゲットする人はこちら: <https://www.goshiken.com/VMware/5V0-35.21-mondaishu.html> (**15030%OFF**問題集溶と正解付きで **30%w**特別割引コード: **Freepdfdumps**)

最新問題: 17

管理者は、待機サイクル 3 とキャンセル サイクル 2 で症状を設定しました。デフォルトのサイクルは変更されませんでした。

両方がトリガーされるまでに何分かかりますか？

- A. 待機: 20 分、キャンセル: 15 分
- B. 待機: 15 分、キャンセル: 15 分
- C. 待機: 15 分、キャンセル: 20 分
- D. 待機: 15 分、キャンセル: 10 分

Answer: ([解答を表示する](#))

最新問題: 18

管理者は、vROps サイジング ツールを使用して、新しい vRealize Operations Manager (vROps) プラットフォームのサイズを計画しています。ツールからのさまざまな構成の出力とサイジング情報は、内部設計の議論のためにモデル化されました。

展示を参照してください :

どの構成のサイズが設定されましたか？

- A. 高可用性
- B. フォールト トレランス
- C. 継続的な可用性
- D. ストレッチ クラスタ

Answer: D ([メッセージを残す](#))

最新問題: 19

管理者は、ダッシュボードのスコアボード ウィジェットに対してカスタム メトリック構成ファイルを有効にしたいと考えていますが、構成後、スコアボードに新しいメトリックがまったく表示されません。

どのスコアボード ウィジェット設定オプションがこの問題の原因となっている可能性がありますか？

- A. コンテンツの更新をオンに設定
- B. セルフプロバイダーがオフに設定されています
- C. セルフプロバイダーがオンに設定されています
- D. コンテンツの更新がオフに設定されています

Answer: D ([メッセージを残す](#))

最新問題: 20

顧客はカスタム ダッシュボードを作成中で、次のウィジェットを追加しました。

- * オブジェクトリスト
- * オブジェクトの関係
- * アラートリスト

顧客の要件は次のとおりです。

オブジェクト リスト ウィジェットでオブジェクトが選択されるたびに、オブジェクト関係ウィジェットには、選択されたオブジェクトの関係マップが表示されます。

アラート リスト ウィジェットには、この選択されたオブジェクトのアクティブ アラートのみが表示されます。

展示を参照してください：



この要件を満たすには、これらのウィジェットのどのポイントを接続する必要がありますか？

- A. H を G に接続し、E を C に接続します。
- B. A を D に接続し、G を B に接続します。
- C. B を E に接続し、B を G に接続します。
- D. A を D に接続し、A を F に接続します。

Answer: C ([メッセージを残す](#))

オブジェクト リスト ウィジェット (A) は、オブジェクトを選択するために使用されます。オブジェクトが選択されると、オブジェクト関係ウィジェット (D、E) に、選択したオブジェクトの関係マップが表示されます。アラート リスト ウィジェット (F、G、H) が選択したオブジェクトのアクティブなアラートのみを表示するという要件を満たすには、オブジェクト リスト ウィジェットの選択出力をオブジェクト リレーションシップ ウィジェットとアラート リスト ウィジェットの両方に接続する必要があります。

したがって、オブジェクト リスト ウィジェットの出力 (ポイント B) をオブジェクト関係ウィジェットの入力 (ポイント E) に接続し、さらにアラート リスト ウィジェットの入力 (ポイント G) にも接続する必要があります。この設定により、オブジェクト リスト ウィジェットでオブジェクトを選択すると、選択したオブジェクトの関連情報でオブジェクト関係マップとアラート リストの両方が更新されます。

最新問題: 21

管理者は、ライセンスが付与されている vSphere クラスタ全体にデータベース ソフトウェアのコストを割り当てるように、vRealize Operations コスト ドライバーを構成する必要があります。管理者はどのタイプのコスト要因を設定する必要がありますか？

- A. アプリケーション
- B. 追加コスト
- C. ライセンス
- D. メンテナンス

Answer: ([解答を表示する](#)**)**

ライセンスが付与されている vSphere クラスター全体にデータベース ソフトウェアのコストを割り当てるために管理者が構成する必要があるコスト ドライバのタイプは、アプリケーションです。アプリケーションは、仮想マシン上で実行され、ビジネス価値を提供するソフトウェア コンポーネントです。アプリケーションの例としては、データベース ソフトウェア、Web サーバー、ミドルウェアなどがあります。Oracle、SQL Server、Apache など、実行するアプリケーションの種類に基づいて、VM にアプリケーション コストを割り当てることができます。また、カスタム アプリケーション タイプを作成して割り当てることもできます。彼らにとってはコストがかかります。アプリケーションのコストを構成することで、プライベート クラウド上でさまざまな種類のアプリケーションを実行する費用を追跡し、リソースの使用率と予算を最適化できます¹²。参考資料: 1: アプリケーション コスト ドライバー 2: VMware vRealize Operations によるコスト計算 パート 1

最新問題: 22

管理者は、新しいコストベースの価格カードを作成し、それを VMware Cloud on AWS (VMC) リソースに接続しました。コスト計算が正常に実行された後、管理者が VM の価格を確認したところ、価格はゼロと表示されました。

この状況について考えられる理由は何でしょうか？

- A. 価格設定カードの基本料金の 1 つにゼロ値が使用されました。
- B. VMC ではレートベースの価格設定カードのみが適用されます。
- C. VMC を使用する場合、コスト計算を 2 回実行する必要があります。
- D. 価格カードは VMC リソースではサポートされていません。

Answer: B (メッセージを残す)

この状況の原因として考えられるのは、VMC リソースには料金ベースの価格設定カードのみが適用されることです。レートベースの価格カードは、CPU、メモリ、ディスク、ネットワークなどのリソース タイプごとにレートを定義する価格カードです。コストベースの価格設定カードは、ホスト、クラスター、データストア、仮想マシンなどのオブジェクト タイプごとに基本料金を定義する価格設定カードです。vRealize Operations は、vSphere リソースに対して両方のタイプの価格設定カードをサポートしますが、VMC リソースに対してはレートベースの価格設定カードのみをサポートします¹。コストベースの価格設定カードが VMC リソースに割り当てられている場合、ポリシーに対して計算された価格は zero² として報告されます。

この状況を回避するには、管理者は VMC リソースにレートベースの価格設定カードを作成して割り当てる必要があります。

他のオプションは、この状況の考えられる理由ではないため、不正解です。選択肢 A は不正解です。コストベースの価格設定カードの基本料金の 1 つの値がゼロであっても、VM の価格はゼロにはなりません。VM の価格は、VM オブジェクト タイプとその親オブジェクト タイプ (データストア、クラスター、ホスト 3 など) の基本料金の合計に基づいて計算されます。選択肢 C は不正解です。VMC を使用する場合、コスト計算を 2 回実行する必要はありません。コスト計算は、クラウドプロバイダーに関係なく、すべての価格設定カードに対して 24 時間ごとに実行されます⁴。選択

肢 D は不正解です。料金ベースの価格カードである限り、価格カードは VMC リソースでサポートされています¹。

参考文献:

vRealize Operations の vRealize Automation 8.x コンポーネントの価格 - VMware ドキュメント
価格の概要 - VMware ドキュメント 新しい価格カードの追加 - VMware ドキュメント コスト計算
- VMware ドキュメント

最新問題: 23

管理者はポリシーで割り当てモデルを有効にし、vSphere データセンター内のすべての vSphere クラスターの CPU オーバーコミット比を 4:1 に設定しました。

実際の CPU オーバーコミット率が 4:1 の構成値より小さいのに、vRealize Operations がクラスターの残り日数が 0 日であると報告するのはなぜですか?

- A. 実際の比率が構成された比率より小さい場合、割り当てモデルは常にゼロの残存容量を報告します。
- B. 割り当てモデルでは、パワーオフされた仮想マシンは考慮されていません。
- C. クラスタ内の CPU 需要が合計 CPU 容量を下回っています。
- D. クラスタ内の CPU 需要が合計 CPU 容量を超えています。

Answer: D (メッセージを残す)

実際の CPU オーバーコミット率が 4:1 の構成値より小さい場合に、vRealize Operations がクラスターの残り日数が 0 日であると報告する理由は、クラスター内の CPU 需要が合計 CPU 容量よりも大きいからです。割り当てモデルは、仮想マシン、クラスター、データストアなどのオブジェクトに割り当てられるリソースの量に基づいて、リソースの容量と使用率を計算する方法です。割り当てモデルを使用すると、管理者は CPU、メモリ、またはディスク領域のオーバーコミット率を設定できます。これは、利用可能なリソースに対する割り当てられたリソースの比率です。オーバーコミット率は、オブジェクトのパフォーマンスや可用性に影響を与えずにリソースをどの程度オーバーコミットできるかを決定します¹。

管理者がポリシーで割り当てモデルを有効にし、vSphere データセンター内のすべての vSphere クラスターの CPU オーバーコミット比を 4:1 に設定すると、管理者は、vSphere データセンターで使用可能な CPU リソースの 4 倍を超える CPU リソースの割り当てを許可することになります。クラスター。たとえば、クラスターの CPU 容量が 100 GHz の場合、管理者はクラスター内の仮想マシンに最大 400 GHz の CPU リソースを割り当てることができます。ただし、これは、仮想マシンが何の影響もなく最大 400 GHz の CPU リソースを消費できるという意味ではありません。仮想マシンの実際の CPU 消費量は、仮想マシンがワークロードを実行するために必要な CPU リソースの量である CPU 需要によって異なります。CPU の需要は、ワークロードのタイプ、強度、パターンによって異なります²。

クラスター内の CPU 需要が合計 CPU 容量よりも大きい場合は、仮想マシンがクラスターが提供できるよりも多くの CPU リソースを要求していることを意味します。これにより、CPU の競合、パフォーマンスの低下、SLA 違反が発生する可能性があります。この場合、vRealize Operations はクラスターの残り日数が 0 日であると報告します。これは、クラスターが最大容量に達しており、こ

れ以上の CPU 需要に対応できないことを意味します。実際の CPU オーバーコミット率が 4:1 の構成値より小さい場合でも、クラスタの残り日数は 0 日になります。これは、オーバーコミット率は、消費されたりリソースではなく、割り当てられたリソースのみを反映するためです。オーバーコミット率は、クラスタが仮想マシンの CPU 需要をサポートできることを保証するものではなく、割り当てモデルに基づいたクラスタの潜在的な容量を示すだけです¹。

参考資料: 1: 割り当てモデル - VMware ドキュメント 2: 需要モデル - VMware ドキュメント

最新問題: 24

vRealize Operations で利用できる価格設定カードの 2 つのタイプはどれですか? (2つお選びください。)

- A. デマンドベース
- B. 割り当てベース
- C. レートベース
- D. 静的ベース
- E. コストベース

Answer: B,E ([メッセージを残す](#))

最新問題: 25

お客様は、東海岸データセンター (プライマリ サイト) に複数の vCenter Server を持ち、リモートデータセンターの各場所 (シカゴ、日本、サンフランシスコ) に 1 台の vCenter Server を持っています。

次の情報が知られています。

彼らは、単一の製品 UI からこれらすべてのデータセンターの場所にある vCenter Server インスタンスを監視したいと考えています。

これらのデータセンター間のネットワーク遅延は 50 ミリ秒です。

どの vRealize Operations クラスタ構成が有効ですか?

- A. vRealize Operations クラスタをプライマリ サイトにデプロイし、データ ノードを各リモートサイトにデプロイします。
- B. vRealize Operations クラスタをプライマリ サイトにデプロイし、プライマリ レプリカ ノードを各リモートサイトにデプロイします。
- C. vRealize Operations クラスタをプライマリ サイトにデプロイし、監視ノードを各リモートサイトにデプロイします。
- D. vRealize Operations クラスタをプライマリ サイトにデプロイし、リモート コレクタ ノードを各リモートサイトにデプロイします。

Answer: D ([メッセージを残す](#))

最新問題: 26

カスタム ビューを作成するときに構成できる 3 つの詳細はどれですか? (3つお選びください。)

- A. カスタム ビュー タグ
- B. 形式

- C. データ
- D. 件名
- E. 入力変換
- F. プレゼンテーション

Answer: ([解答を表示する](#))

最新問題: 27

vRealize Operations Manager でサポートされている、すぐに使用できる有効な通知タイプはどれですか？

- A. SMS
- B. 救済策
- C. Microsoft Teams
- D. スラック

Answer: C ([メッセージを残す](#))

vRealize Operations Manager は、電子メール通知やサードパーティ システムとの統合など、すぐに使用できるさまざまな通知方法をサポートしています。Microsoft Teams は通知がサポートされているプラットフォームの 1 つであり、vRealize Operations Manager からのアラートと更新を Microsoft Teams チャネルに直接送信できます。この統合により、IT チーム内でのリアルタイムのアラートとコラボレーションが容易になります。

ただし、SMS や Slack などのオプションでは、追加のサードパーティ プラグインや統合が必要になる場合があります、すぐに使用できる通知タイプとしてネイティブにサポートされていません。RemedyはITサービス管理ツールであり、統合は可能ですが、直接通知するタイプではありません。

最新問題: 28

システム管理者は、ウィジェットからダッシュボードを作成したいと考えています。
(? 3つお選びください。)

- A. 上位 N ウィジェット
- B. メトリック チャート ウィジェット
- C. 症状ウィジェット
- D. 天気図ウィジェット
- E. レポート ウィジェット
- F. インタラクション ウィジェット

Answer: ([解答を表示する](#))

<https://docs.vmware.com/en/VMware-Aria-Operations/8.12/Cconfiguring-Operations/GUID-5B6169B5-CB> 参考資料:

1: VMware vRealize Operations のダッシュボード 2: ダッシュボードの作成 3: VMware vRealize Operations のウィジェット 4: [ダッシュボードにウィジェットを追加] 5: [トップ N ウィジェット]: [メトリック チャート ウィジェット]: [インタラクション ウィジェット]: vRealize Operations Manager ユーザー ガイド : vRealize Operations Manager インストールおよび構成ガ

イド : [vRealize Operations Manager コンセプト ガイド] : [vRealize Operations Manager 管理ガイド] : [vRealize Operations Manager カスタマイズおよび拡張ガイド] : [vRealize Operations Manager トラブルシューティング ガイド] : [vRealize Operations マネージャー API プログラミング ガイド] :

【vRealize Operations Manager 認定試験ガイド】

最新問題: 29

サブスクライブしたクラウド サービスに関係なく、クラウド サービス コンソールで利用できる機能はどれですか？

- A. 組織のアクセス管理
- B. ID とアクセス管理
- C. 設定
- D. コストに関する分析情報

Answer: B ([メッセージを残す](#))

VMware vRealize Operations Reference Materials によると、クラウド サービス コンソールは、VMware Cloud サービスへのアクセスと管理を可能にする統合インターフェイスです。ID とアクセス管理機能は、組織のユーザー、グループ、ロール、権限を管理できるため、サブスクライブしたクラウド サービスに関係なくクラウド サービス コンソールで利用できます。組織のアクセス管理、設定、コスト分析などのその他の機能は、特定のクラウド サービスに固有であり、すべてのサブスクリプションで利用できるわけではありません。参考文献:

クラウド サービス コンソールの概要
ID とアクセス管理の概要

最新問題: 30

管理者は、vRealize Operations を容量モデリングに使用して、残り時間と残り容量スコアを増やすためにさらに何台の ESXi サーバーが必要かを判断しています。

この目標を達成するには何を使えばよいでしょうか？

- A. What-If 分析
- B. 操作の概要
- C. サイズの適正化
- D. ワークロードの最適化

Answer: A ([メッセージを残す](#))

最新問題: 31

ユーザーは、vRealize Operations 製品 UI にのみアクセスできます。ログインするとどのコンポーネントが使用可能になりますか？

- A. システム ステータス ページ
- B. ソフトウェア アップデート ページ
- C. 証明書管理
- D. ダッシュボード ページ

Answer: ([解答を表示する](#))

有効な **5V0-35.21** 問題集は GoShiken.com が提供された合格しやすい 5V0-35.21 試験問題集！ GoShiken.com が最新の **5V0-35.21** 試験問題集を提供しています。GoShiken.com 5V0-35.21 試験問題は最新で、解答が正確でございます。最新の GoShiken.com 5V0-35.21 問題集をゲットする人はこちら: <https://www.goshiken.com/VMware/5V0-35.21-mondaishu.html> (**15030%OFF**問題集溶と正解付きで **30%**w 特別割引コード: **Freepdfdumps**)

最新問題: **32**

管理者は新しいアラート定義を作成しています。この新しいアラートは、トリガーされたときにオブジェクトのリスク バッジに影響を与えることが決定されました。

この目標を達成するには、管理者はどの設定を構成する必要がありますか？

- A. 影響
- B. アラートのタイプとサブタイプ
- C. 重大度
- D. 基本オブジェクト タイプ

Answer: **A** ([メッセージを残す](#))

アラート定義の影響設定により、アラートがトリガーされたときにオブジェクトのどのバッジが影響を受けるかが決まります。影響設定は、健全性、リスク、効率のいずれかになります。ヘルスへの影響は、アラートがオブジェクトの現在の状態に影響を及ぼし、即時の対応が必要であることを示します。リスクへの影響は、アラートがオブジェクトの将来の状態に影響を及ぼし、事前のアクションが必要であることを示します。効率への影響は、アラートがオブジェクトによるリソースの最適な使用に影響を及ぼし、最適化が必要であることを示します。したがって、アラートがトリガーされたときにオブジェクトのリスク バッジに影響を与えるという目標を達成するには、管理者はアラート定義の影響設定をリスクに構成する必要があります。参考資料: vRealize Operations でのアラートの定義。ポリシーアラートの定義

最新問題: **33**

ワークロード プランニングを実行すると、選択した仮想マシンを収容する容量が既存のクラスターにないことが返されます。

デフォルトで提供される代替案はどれですか？

- A. ハイブリッド/プライベート/パブリック クラウドで実行する場合のコストの比較
- B. ホスト構成の変更
- C. ホストを追加してクラスター容量を増やすためのコスト オプション
- D. 仮想マシン構成の変更

Answer: **C** ([メッセージを残す](#))

最新問題: **34**

データセンターを比較するための What-If 分析を作成する際、管理者はリソースの 25% の使用率をシミュレートしたいと考えています。

どのワークロード オプションをシナリオに含める必要がありますか？

- A. メモリ
- B. 年間予測成長率
- C. 予想される使用率
- D. CPU

Answer: C ([メッセージを残す](#))

予想使用率は、リソースの 25% の使用率をシミュレートするためにシナリオに含める必要があるワークロード オプションです。予想使用率は、割り当てられたリソース (CPU、メモリ、ストレージ) のうち、ワークロードによって使用されると予想される量を示すパーセンテージ値です。予想使用率を次のように設定すると、

25% の場合、管理者は、データセンター内のリソースの 25% を消費するワークロードの追加または削除の影響をモデル化できます。メモリ、年間予測増加量、CPU はワークロードのオプションではなく、ワークロードの属性です。メモリと CPU はワークロードに割り当てられたリソースの量であり、年間予測増加率はワークロードが毎年増加すると予想される割合です。これらの属性は、ワークロードによるリソースの使用率を直接指定するものではありません。参考資料: What-If 分析 - ワークロード プランニング: 従来型、セクション What-If 分析 - ワークロード プランニング: 従来型の仕組み」。『Realize Operations Manager ユーザー ガイド』の「ダッシュボードの作成と構成」セクション。

最新問題: 35

管理 UI を使用した vRealize Operations クラスタのアップグレード中に、クラスタに障害が発生し、ステータスがオフラインに変わりました。

この問題を管理し、インストール プロセスを続行するには、どの修復戦略を使用する必要がありますか？

- A. クラスターを手動でオフラインにし、[ロールバック インストール] を選択します。
- B. クラスターを手動でオンラインにし、[ロールバック インストール] を選択します。
- C. クラスターを手動でオフラインにし、[インストールの完了] を選択します。
- D. クラスターを手動でオンラインにし、[インストールの完了] を選択します。

Answer: ([解答を表示する](#))

『VMware vRealize Operations インストールおよび構成ガイド 1』によると、管理 UI を使用して vRealize Operations クラスターをアップグレードする場合、アップグレード プロセスの完了後にクラスターのステータスがオフラインからオンラインに変更される必要があります。ただし、クラスターのステータスがオフラインのままであるか、アップグレード中に失敗した場合、管理者は [インストールの完了] オプションを使用してアップグレード プロセスを再開できます。[インストールの完了] オプションでは、クラスターをオンラインにしてアップグレードを完了しようとしません。管理者は、管理 UI または [クラスター管理] ページからアップグレードの進行状況を監視できます。

他のオプションは、この問題に対処し、インストール プロセスを続行するには適していません。ロールバック インストール オプションは、アップグレード プロセスを再開するためではなく、クラスタを以前のバージョンの vRealize Operations に戻すために使用されます。ロールバック インストール オプションは、クラスタがオンラインでアップグレードが失敗した場合にのみ使用できます。管理者は、クラスタを手動でオフラインにしないでください。オフラインにすると、アップグレード プロセスが中断され、データの損失や破損が発生する可能性があります。参考文献:

1: VMware vRealize Operations インストールおよび構成ガイド、
<https://docs.vmware.com/en/vRealize-Operations/8.5/vrealize-operations-manager-85-installation-and-con> ページ 54-55、58-59

最新問題: 36

管理者はポリシーで割り当てモデルを有効にし、vSphere データセンター内のすべての vSphere クラスタの CPU オーバーコミット比を 4:1 に設定しました。

実際の CPU オーバーコミット率が 4:1 の構成値より小さいのに、vRealize Operations がクラスタの残り日数が 0 日であると報告するのはなぜですか？

- A. 実際の比率が構成された比率より小さい場合、割り当てモデルは常にゼロの残存容量を報告します。
- B. クラスタ内の CPU 需要が合計 CPU 容量を下回っています。
- C. クラスタ内の CPU 需要が合計 CPU 容量を超えています。
- D. 割り当てモデルでは、パワーオフされた仮想マシンは考慮されていません。

Answer: ([解答を表示する](#))

最新問題: 37

vRealize Automation Cloud と vRealize Operations Cloud の間でワークロード配置機能を有効にするには、どの 3 つの前提条件を満たす必要がありますか？ (3つお選びください。)

- A. vRealize Automation Cloud 用の vRealize Operations Management Pack をインストールし、アクティブ化する必要があります。
- B. vRealize Automation Cloud と vRealize Operations Cloud の両方が同じクラウド アカウントを管理する必要があります。
- C. vRealize Automation Cloud では、ターゲットのクラウド ゾーン配置ポリシーを SPREAD に設定する必要があります。
- D. vRealize Automation Cloud では、ターゲットのクラウド ゾーン配置ポリシーを ADVANCED に設定する必要があります
- E. ターゲット クラウド ゾーン内のすべてのクラスタで VMware HA が有効になっている必要があります。
- F. ターゲットのクラウド ゾーン内のすべてのクラスタでは、完全に自動化された VMware DRS が有効になっている必要があります。

Answer: B,D,F ([メッセージを残す](#))

vRealize Automation Cloud と vRealize Operations Cloud 間のワークロード配置機能により、vRealize Operations Cloud は需要と割り当てモデルに基づいて仮想マシンの初期配置に関する推奨事項を提供できるようになります。この機能を有効にするには、次の前提条件を満たす必要があります12:

vRealize Automation Cloud と vRealize Operations Cloud は両方とも同じクラウドアカウントを管理する必要があります。これは、vRealize Automation Cloud でクラウドアカウントとして使用される vCenter Server インスタンスが、vRealize Operations Cloud によって監視されるものと同じである必要があることを意味します。これにより、vSphere オブジェクトの一貫性が確保され、両方のプラットフォーム間で識別可能になります。

vRealize Automation Cloud では、ターゲットのクラウドゾーン配置ポリシーを ADVANCED に設定する必要があります。

このオプションにより、vRealize Operations Cloud との統合が有効になり、vRealize Operations ポリシー設定に基づいて配置の推奨事項を提供できるようになります。SPREAD や BINPACK などの他のオプションは、vRealize Automation Cloud 独自の配置ロジックを使用し、vRealize Operations Cloud を利用しません。

ターゲットのクラウドゾーン内のすべてのクラスターでは、完全に自動化された VMware DRS が有効になっている必要があります。これは、vRealize Operations Cloud がクラスター間でワークロードのバランスをとるために DRS アルゴリズムに依存しているため、配置の推奨事項を提供するための要件です。クラスターで DRS が有効になっていない場合、または手動または部分的に自動化されている場合、vRealize Operations Cloud は配置の推奨を提供できません。

vRealize Automation Cloud と vRealize Operations Cloud の間のワークロード配置機能を有効にするために、vRealize Automation Cloud 用の vRealize Operations Management Pack のインストール、クラスターでの VMware HA の有効化、配置ポリシーの SPREAD への設定などの他のオプションは必要ありません。参考資料: 1: 割り当てモデルの高度なワークロード配置 2: ワークロード配置の詳細

最新問題: 38

プライマリノード、データノード、および監視ノードで vRealize Operations の継続的な可用性を実現するために必要なフォールトドメインの最小数はいくつですか?

- A. 4
- B. 1
- C. 3
- D. 2

Answer: D ([メッセージを残す](#))

vRealize Operations 継続的可用性 (CA) は、vRealize Operations クラスターを vSphere クラスターにまたがる 2 つの障害ドメインに分離し、障害ドメイン全体の損失から分析クラスターを保護します。フォールトドメインは、データセンター内の物理的な場所に従ってグループ化された 1 つ以上の分析ノードで構成されます。CA をアクティブにするには、プライマリノードと監視ノードに加えて、少なくとも 1 つのデータノードを展開する必要があります。プライマリノードとデータ

ノードは異なるフォールト ドメインに存在する必要がある、監視ノードは 3 番目の場所に存在する必要があります。したがって、プライマリ ノード、データ ノード、および監視ノードで vRealize Operations の継続的な可用性を実現するために必要なフォールト ドメインの最小数は 2 です。参考資料: vRealize Operations の継続的な可用性について。継続的な可用性に関する考慮事項

最新問題: 39

管理者は、どの仮想マシンが Active Directory サービスを実行しているかを特定するためにサービス検出を構成するという任務を負っています。すべての仮想マシンは vSphere 6.5 上で実行されています。

管理者がこのタスクを完了するには、どの資格情報が必要ですか？

- A. 資格情報なしのサービス検出を使用できるため、資格情報は必要ありません。
- B. ローカル Windows 管理者のアカウントとパスワード。
- C. Active Directory ドメインのユーザー アカウントとパスワード。
- D. Active Directory ドメイン管理者のアカウントとパスワード。

Answer: D ([メッセージを残す](#))

最新問題: 40

管理者は、管理 UI を使用して vRealize Operations クラスタを管理する必要があります。どの 2 つのアクションが可能ですか? (2つお選びください。)

- A. vRealize Operations ネイティブ管理パックのアクティブ化
- B. vRealize Operations ノードでの DNS サーバーの構成
- C. 新しい vRealize Operations ノード OVA のデプロイ
- D. vRealize Operations PAK ファイルのアップロードとインストール
- E. vRealize Operations クラスタの高可用性の有効化または無効化

Answer: C,E ([メッセージを残す](#))

最新問題: 41

ビジネス インテントは vRealize Operations のオブジェクトにどのように適用されますか？

- A. グループ
- B. タグ
- C. 役割
- D. ポリシー

Answer: A ([メッセージを残す](#))

最新問題: 42

トリガーされたアラームによって自動アクションを開始するには、どこで自動アクションを有効にする必要がありますか？

- A. オブジェクトに関連付けられたポリシー
- B. オブジェクトに関連付けられた推奨事項
- C. デフォルトポリシーのオブジェクト

D. オブジェクトに関連する症状の定義

Answer: A ([メッセージを残す](#))

アラートのアクションを自動化するには、オブジェクトに関連付けられたポリシーでアラートを有効にする必要があります。ポリシーは、vRealize Operations が環境内のオブジェクトに適用する設定とルールを定義します。自動化する症状、推奨事項、アクションに関連付けられたアラート定義の [自動化] オプションを選択することにより、ポリシーで実用的なアラートをアクティブ化できます。推奨事項に関連付けられたアラートがトリガーされると、ユーザーの介入なしでアクションがトリガーされます。他のオプションは、アクションの自動化を有効にしないため、正しくありません。オブジェクトに関連付けられた推奨事項は、アラートによって示された問題を解決するための提案ですが、アクションはアクティブ化されません。デフォルト ポリシー内のオブジェクトは、アクションの自動化を有効にするほど具体的ではありません。オブジェクトに関連付けられた症状の定義は、潜在的な問題を示す条件ですが、アクションをアクティブ化するものではありません。参考資料: 自動化でサポートされるアクション、VMware vRealize Operations アクション

最新問題: 43

管理者は、トラブルシューティングの目的で vRealize Operations のトラブルシューティングワークベンチを使用しています。

統合が構成されている場合、他のどの vRealize Suite 製品のデータがこのビューに表示されますか？

- A. vRealize AI クラウド
- B. vRealize Automation
- C. vRealize Network Insight
- D. vRealize Log Insight

Answer: C ([メッセージを残す](#))

最新問題: 44

管理者は、仮想マシン上で実行されているカスタム アプリケーション サービスを検出するために vRealize Operations を構成するという任務を負っています。

管理者はこのタスクをどのように完了する必要がありますか？

- A. Telegraf エージェントをデプロイします。
- B. ホワイトリストを設定します。
- C. カスタム XML ファイルを作成し、インポートします。
- D. vRealize Operations Service Discover/Management Pack をインストールします。

Answer: (解答を表示する)

仮想マシン上で実行されているカスタム アプリケーション サービスを検出するには、管理者は vRealize Operations Service Discovery Management Pack1 をインストールする必要があります。この管理パックでは、Service Discovery アダプターを使用したサービスとアプリケーションの検出が可能になり、Telegraf エージェントを利用してエンドポイント VM からデータを収集します²。管理者は、事前定義およびカスタムのアプリケーションとサービスを検出し、それらの関

係とメトリックを vRealize Operations3 で表示するように Service Discovery アダプタを構成できます。管理者は、オブジェクト名、タグ、またはプロパティに基づいてカスタム アプリケーション定義を作成し、それらを XML ファイルとしてインポートすることもできます。ホワイトリストの構成は、不要なサービスを検出から除外するために使用されるため、有効なオプションではありません。参考資料: 1: vRealize Operations Service Discovery Management Pack - VMware Docs(<https://docs.vmware.com/en/vRealize-Operations/8.6/com.vmware.vcom.core.doc/GUID-B9095E9B-7F10-サービスとアプリケーション>)検出 - VMware ドキュメント (<https://docs.vmware.com/en/vRealize-Operations/8.10/com.vmware.vcom.core.doc/GUID-CC683117-D93-サービスとアプリケーションの検出の構成> - VMware ドキュメント (<https://developer.vmware.com/apis/579/vra-advanced-designer/>): アプリケーション定義の作成 - VMware ドキュメント: ホワイト リストの構成 - VMware Docs

最新問題: 45

管理者はロールを持つ Active Directory グループをインポートしており、グループメンバーは vRealize Operations に正常にログインできます。しばらくして、管理者は Active Directory グループに新しいユーザーを追加しましたが、新しく追加されたグループメンバーがユーザー アカウント セクションに表示されず、vRealize Operations にログインできないことがわかりました。古いグループのメンバーにとってはすべてが期待どおりに機能しています。

管理者は、新しく追加されたグループメンバーが vRealize Operations にすぐにログインできるようにするためのさらなる手順を実行する必要があります。

管理者はどの 2 つの手順を実行する必要がありますか? (2つお選びください。)

- A. 認証ソースを再度追加します。
- B. SAML IdP を認証ソースとして追加し、ソース タイプとして SSO SAML を選択します。
- C. ユーザー グループを同期します。
- D. [設定されたグループのユーザー メンバーシップを自動的に同期する] が選択されているかどうかを確認します。
- E. 既存の認証元を削除します。

Answer: ([解答を表示する](#))

新しく追加されたグループメンバーが vRealize Operations にすぐにログインできるようにするには、管理者は Active Directory ソースからユーザー グループを同期し、自動同期オプションが有効になっているかどうかを確認する必要があります。ユーザー グループを同期すると、最新のユーザー グループ情報がソースから vRealize Operations にインポートされます。自動同期オプションをチェックすると、ユーザー グループのメンバーシップが手動介入なしで定期的に更新されます。認証ソースの再追加または削除は、既存のユーザー アクセス制御を混乱させるため、必要な手順ではありません。質問は Active Directory グループに関するものであるため、SAML IdP を認証ソースとして追加することは関係ありません。参考資料: ソースからのユーザー グループのインポート、ユーザー グループのエクスポートとインポート、Workspace ONE Access での VMware Aria 操作の Active Directory グループの同期

最新問題: 46

管理者は、vMotion 操作を減らすことでクラスター間のワークロードの競合を最小限に抑えるようにワークロードの最適化を構成しています。

この目標を達成するにはどの設定を構成する必要がありますか？

- A. 中程度
- B. 残高
- C. 統合
- D. バッファ

Answer: C ([メッセージを残す](#))

VMware vRealize Operations Reference Materials によると、ワークロードの最適化は、仮想化インフラストラクチャ全体でワークロードのバランスを自動的に調整し、最適化できる機能です。ワークロードの最適化には、クラスター間でワークロードをどの程度積極的に移動するかを決定する 4 つの設定があります。

適度、バランス、統合、緩衝。各設定は、vMotion 操作の数、クラスターのヘッドルーム、およびワークロードの競合に異なる影響を与えます。

Consolidate 設定は、使用されるクラスターの数減らし、各クラスターの使用率を最大化することで、クラスター間のワークロードの競合を最小限に抑えることを目的とした最も積極的な設定です。Consolidate 設定は、ほとんどの vMotion 操作を実行し、クラスターのヘッドルームを最小限に抑え、ワークロードの競合を最小限に抑えます。統合設定は、オーバープロビジョニングされたクラスターがあり、一部のクラスターを他の目的に解放したり、インフラストラクチャのコストを削減したい環境に適しています。したがって、選択肢 C が正しいです。

他のオプションは、vMotion 操作を減らしてクラスター間のワークロード競合を最小限に抑えるという目標を満たしていないため、不正解です。オプション A は不正解です。中程度の設定は、クラスターの現在の状態を維持し、不必要な vMotion 操作を回避することを目的とした最も積極的な設定ではありません。中程度設定では、最小限の vMotion 操作が実行され、クラスターのヘッドルームが最大限に残され、ワークロードの競合が最も高くなります。中程度の設定は、安定したクラスターがあり、既存のワークロードの配置を中断したくない環境に適しています。オプション B は不正解です。バランス設定は、クラスター間のワークロード分散のバランスをとり、クラスターのパフォーマンスを向上させることを目的とした中程度の設定です。バランス設定では、中程度の数の vMotion 操作が実行され、中程度のクラスターヘッドルームが残され、中程度のワークロード競合が発生します。バランス設定は、不均衡なクラスターがあり、ワークロードの配置を最適化したい環境に適しています。

選択肢 D は不正解です。バッファ設定は、クラスターのヘッドルームを増やし、リソース不足のリスクを軽減することを目的とした保守的な設定です。[バッファ] 設定では、実行される vMotion 操作の数が少なく、クラスターのヘッドルームが大きく残され、ワークロードの競合が低くなります。バッファ設定は、予測不可能なワークロードやバースト性の高いワークロードがあり、将来の需要に備えて十分な容量を確保したい環境に適しています。参考文献:

ワークロード最適化の構成と使用

自動運転データセンターの実行を開始する - vRealize Operations 7.0 ワークロードの最適化 ワークロードの最適化を使用したパフォーマンスの向上

有効な 5V0-35.21 問題集は GoShiken.com が提供された合格しやすい 5V0-35.21 試験問題集！ GoShiken.com が最新の 5V0-35.21 試験問題集を提供しています。GoShiken.com 5V0-35.21 試験問題は最新で、解答が正確でございます。最新の GoShiken.com 5V0-35.21 問題集をゲットする人はこちら: <https://www.goshiken.com/VMware/5V0-35.21-mondaishu.html> (15030%OFF問題集溶と正解付きで 30%w特別割引コード: **Freepdfdumps**)

最新問題: 47

スーパー メトリックとして適用できる 2 つのオプションはどれですか? (2つお選びください。)

- A. データセンター内の VM の平均 CPU 使用率
- B. 2 つの定義されたタイムスタンプ間の各 VM の CPU 使用率の差
- C. 関数内の数学的計算で使用できる文字列演算子
- D. vSphere クラスタ内の非 Windows VM の数
- E. ESXi ホスト内の VM の平均 SCSI 数とディスク サイズ

Answer: ([解答を表示する](#))

スーパー メトリックは、1 つ以上のオブジェクトの 1 つ以上のメトリックまたはプロパティを含む数式です。これを使用すると、環境に固有のカスタム メトリクスを作成でき、インフラストラクチャのパフォーマンスと健全性についてより深い洞察を得るのに役立ちます¹。スーパー メトリックは、数式 2 に関係するオブジェクトまたはメトリックを含む任意のオブジェクトタイプに適用できます。

オプション A は、データセンター内の VM の平均 CPU 使用率を計算するため、有効なスーパー メトリックです。これは、VM を子オブジェクトとして含むオブジェクトタイプです。このスーパー メトリックの式は `avg($this, metric=cpu|usage_average, Depth=1)` のようなものになります。これは、現在のオブジェクトのすべての子オブジェクトの CPU 使用率平均メトリックの平均を意味します³。

オプション D も、子オブジェクトとして VM を含むオブジェクトタイプである vSphere クラスタ内の非 Windows VM の数をカウントするため、有効なスーパー メトリックです。このスーパー メトリックの式は、`count($this, metric=guestfilesystem|osType, Depth=1, where=not contains windows)` のようなものになります。これは、次のすべての子オブジェクトのゲスト OS タイプメトリックの数を意味します。現在のオブジェクト。値に `windows3` という単語が含まれていません。

オプション B は、2 つの定義されたタイムスタンプ間の各 VM の CPU 使用率の差が関係するため、有効なスーパー メトリックではありません。これは、スーパー メトリックの式で使用できるメトリックまたはプロパティではありません。スーパー メトリックでは、任意のタイムスタンプではなく、vRealize Operations によって収集されたメトリックまたはプロパティのみを使用できます²。

オプション C は、関数内の数学的計算で使用できる文字列演算子を含んでおり、スーパー メトリック式で使用できるメトリックまたはプロパティではないため、有効なスーパー メトリックで

はありません。スーパー メトリックは、数学的計算で文字列値ではなく数値のみを使用できます
2。

オプション E は、ESXi ホスト内の VM の平均 SCSI 数とディスク サイズが関係するため、有効なスーパー メトリックではありません。これは、スーパー メトリックの式で利用できるメトリックまたはプロパティではありません。スーパー メトリックは、スーパー メトリックが割り当てられているオブジェクトタイプで利用できるメトリックまたはプロパティのみを使用できません。SCSI カウントとディスク サイズは、ESXi ホストオブジェクトタイプ 2 では使用できません。

参考文献:

私の vRealize Operations スーパー メトリクス トップ 15 - VMware ブログ

スーパー メトリックの構成 - VMware Docs

vRealize Operations 8.10 - スーパー メトリックの作成 - 仮想化ブログ

最新問題: 48

管理者は、管理 UI を使用して vRealize Operations クラスタを管理する必要があります。どの 2 つのアクションが可能ですか? (2つお選びください。)

- A. 新しい vRealize Operations ノード OVA のデプロイ
- B. vRealize Operations PAK ファイルのアップロードとインストール
- C. vRealize Operations ネイティブ管理パックのアクティブ化
- D. vRealize Operations クラスタの高可用性の有効化または無効化
- E. vRealize Operations ノードでの DNS サーバーの構成

Answer: ([解答を表示する](#))

管理 UI を使用して vRealize Operations クラスタを管理できる 2 つのアクションは、vRealize Operations PAK ファイルのアップロードとインストール、および vRealize Operations クラスタの高可用性の有効化または無効化です。

vRealize Operations PAK ファイルのアップロードとインストールは、管理者が vRealize Operations ソフトウェアの更新、新機能の追加、または管理パック 1 のインストールを行うことを可能にするアクションです。

vRealize Operations クラスタの高可用性の有効化または無効化は、管理者が 1 つ以上のノードの障害を許容し、vRealize Operations サービスの継続性と可用性を確保するようにクラスタを構成できるアクションです²。

新しい vRealize Operations ノード OVA のデプロイ (オプション A) は、OVA ファイルを vCenter Server3 にデプロイするために vSphere Client または vSphere Web Client を使用する必要があるため、管理 UI を使用して実行できるアクションではありません。

vRealize Operations ネイティブ管理パックのアクティブ化 (オプション C) は、vRealize Operations Manager UI を使用して [ソリューション] ページにアクセスし、管理パックをアクティブ化する必要があるため、管理 UI を使用して実行できるアクションではありません⁴。

vRealize Operations ノードでの DNS サーバーの構成 (オプション E) は、ノード設定にアクセスして DNS サーバーを構成するためにコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用する必要があるため、管理 UI を使用して実行できるアクションではありません⁵。

参考文献:

- 1: VMware vRealize Operations Specialist 試験 2023 (5V0-35.21) 試験ガイド、VMware、2021年、p. 11.
- 2: VMware vRealize Operations Specialist 試験 2023 (5V0-35.21) 試験ガイド、VMware、2021年、p. 12.
- 3: 『vRealize Operations Manager インストールおよび構成ガイド』、VMware、2021年、p. 17.
- 4: 『vRealize Operations Manager インストールおよび構成ガイド』、VMware、2021年、p. 31.
- 5: 『vRealize Operations Manager インストールおよび構成ガイド』、VMware、2021年、p. 25.

最新問題: 49

vRealize Operations で利用できる規制の標準ベースのコンプライアンス パックはどれですか？

- A. サーベンス ・オクスリー法 (SOX)
- B. CIS セキュリティ標準
- C. 一般データ保護規則 (GDPR)
- D. 一般的な脆弱性と暴露 (CVE)

Answer: B ([メッセージを残す](#))

最新問題: 50

vRealize Operations (vROps) 設計のどのタイプのノードを使用すれば、管理者は vROps をスケールアウトして非常に大規模な環境を監視できますか？

- A. リモート コレクター
- B. レプリカ プライマリ ノード
- C. プライマリ ノード
- D. データノード

Answer: ([解答を表示する](#))

アラート定義の影響設定により、アラートがトリガーされたときにオブジェクトのどのバッジが影響を受けるかが決まります。影響設定は、健全性、リスク、効率のいずれかになります。ヘルスへの影響は、アラートがオブジェクトの現在の状態に影響を及ぼし、即時の対応が必要であることを示します。リスクへの影響は、アラートがオブジェクトの将来の状態に影響を及ぼし、事前のアクションが必要であることを示します。効率への影響は、アラートがオブジェクトによるリソースの最適な使用に影響を及ぼし、最適化が必要であることを示します。したがって、アラートがトリガーされたときにオブジェクトのリスク バッジに影響を与えるという目標を達成するには、管理者はアラート定義の影響設定をリスクに構成する必要があります。参考資料: vRealize Operations でのアラートの定義。ポリシーアラートの定義

最新問題: 51

管理者は、新しい環境の価格カードを作成しました。価格設定カードが作成され添付された後、管理者はすぐにコスト ダッシュボードを確認しましたが、新しい環境の VM の価格はゼロしか表示されませんでした。

この動作の理由は何ですか？

- A. 価格は ESXi ホストでのみ利用可能です。
- B. コストベースの価格設定カードが作成されました。
- C. コスト計算はまだ実行されていません。
- D. 価格カードが VM リソースにアタッチされていませんでした。

Answer: C ([メッセージを残す](#))

VMware vRealize Operations Reference Materials によると、価格カードを作成して添付した後、新しい環境で VM の価格がゼロになる理由は、コスト計算がまだ実行されていないためです。コスト計算は、デフォルトで 24 時間ごとに実行されるプロセスであり、割り当てられた価格設定カードに基づいて、在庫内のすべてのオブジェクトのコスト情報を更新します。したがって、管理者は、新しい環境の VM の更新された価格を確認するには、次のコスト計算サイクルを待つ必要があります。他のオプションは、誤っているか無関係であるため、正しくありません。価格は ESXi ホストだけでなく、価格カードが添付されているすべてのオブジェクトでも利用できます。コストベースの価格設定カードを使用すると、実際のリソース消費に基づいてオブジェクトのコストを計算できますが、価格がゼロになることはありません。

価格設定カードは VM リソースにアタッチされていました。そうでない場合、管理者はコストダッシュボードに価格設定カード名を表示できません。参考資料: 価格の概要。コスト計算; 価格カードを作成する

最新問題: 52

管理者は、既存の vRealize Operations Manager インスタンスが既存の vCenter Server 内に新しくデプロイされた vSAN クラスタを監視できるようにするという任務を負っています。

この目標を達成するには、管理者はどのアクションを実行する必要がありますか？

- A. [その他のアカウント] に vSAN クラスタを追加します。
- B. 既存の vCenter Server クラウドアカウントで vSAN 監視を有効にします。
- C. vSAN 用 vRealize Operations Management Pack をダウンロードしてインストールします。
- D. クラウドアカウントの下に vSAN クラスタを追加します。

Answer: B ([メッセージを残す](#))

『vRealize Operations ユーザーガイド 1』によると、既存の vRealize Operations Manager インスタンスが既存の vCenter Server 内に新しくデプロイされた vSAN クラスタを監視できるようにするという目標を達成するために管理者が実行する必要があるアクションは、既存の vCenter Server で vSAN 監視を有効にすることです。サーバークラウドアカウント。vCenter Server クラウドアカウントは、クラスタ、ホスト、データストア、仮想マシンなどの vSphere コンポーネントを管理する vCenter Server インスタンスの接続の詳細と認証情報を定義する構成です。vCenter Server クラウドアカウントで vSAN 監視を有効にすることで、管理者は vRealize Operations Manager が vSAN クラスタからデータを収集し、ディスクグループ、ディスク、障害ドメインなどの vSAN コンポーネントの健全性、パフォーマンス、容量、構成を監視できるようになります。、およびストレージポリシー。このガイドでは、vRealize Operations Manager ユーザーイン

ターフェイス 1 を使用して、vCenter Server クラウド アカウントで vSAN 監視を有効にする手順が説明されています。

他のオプションは次の理由により正しくありません。

vRealize Operations Manager ユーザー インターフェイスにはそのようなオプションがないため、他のアカウントに vSAN クラスタを追加することは有効なアクションではありません。[管理] の [その他のアカウント] オプションは、AWS、Azure、Google Cloud、Kubernetes などの他のタイプのクラウド サービスのアカウントを追加するために使用されますが、vSAN クラスタ 1 には使用されません。

vRealize Operations Manager は追加の管理パックを必要とせずに vSAN 監視をネイティブにサポートしているため、vSAN 用の vRealize Operations Management Pack のダウンロードとインストールは必須の操作ではありません。vRealize Operations Management Pack for vSAN は、vSAN 監視用の追加のダッシュボード、アラート、レポートを提供するオプションの拡張機能ですが、目標 2 を達成するためには必須ではありません。

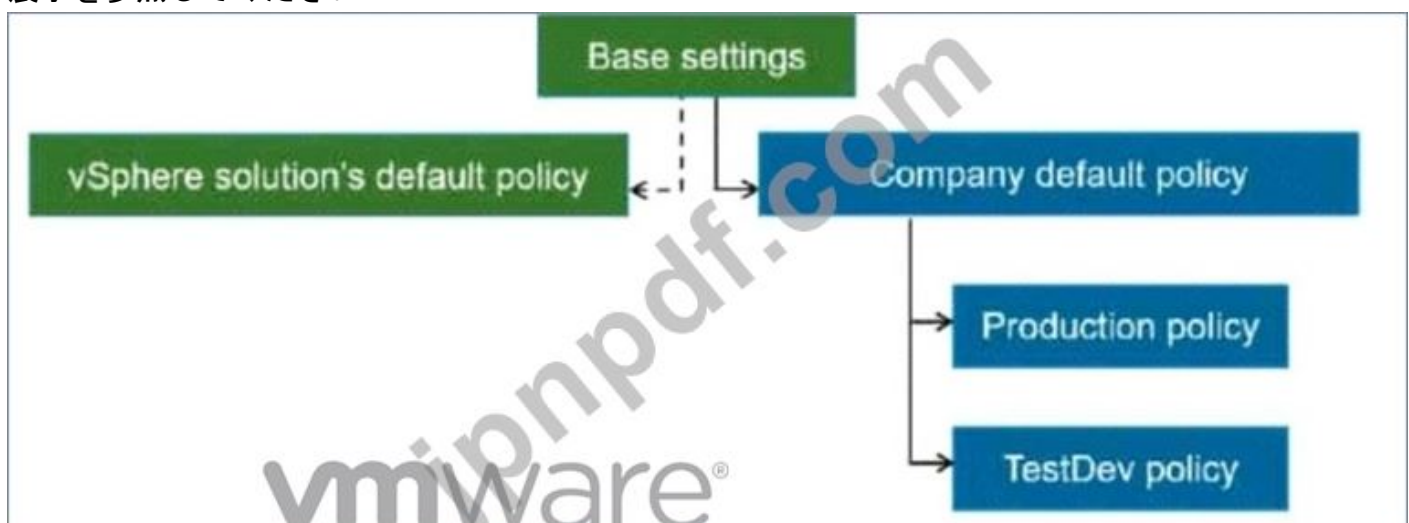
vRealize Operations Manager ユーザー インターフェイスにはそのようなオプションがないため、クラウド アカウントに vSAN クラスタを追加することは有効なアクションではありません。[管理] の [クラウド アカウント] オプションは、VMware Cloud on AWS、VMware Cloud Director、NSX-T などの VMware Cloud サービスのアカウントを追加するために使用されますが、vSAN クラスタ 1 には使用されません。参考資料: 1: vRealize Operations ユーザー ガイド、17 ~ 18 ページ、

21-222: vRealize Operations Management Pack for vSAN、概要セクション。

最新問題: 53

管理者は会社のデフォルト ポリシーを作成しました。さらに、会社のポリシーに基づいて、本番環境とテストおよび開発環境に個別のポリシーが作成されました。

展示を参照してください :



実稼働ポリシーで一部の仮想マシンのメトリクスを無効にすると、どのような影響がありますか？

- A. Production ポリシーと TestDev ポリシーに割り当てられたオブジェクトが影響を受けます。
- B. ポリシーでメトリクスを無効にすると、メトリクスがグローバルに無効になるため、すべてのオブジェクトが影響を受けます。

- C. ポリシーでメトリクスを無効にできないため、影響はありません。
- D. 運用ポリシーに割り当てられたオブジェクトが影響を受けます。

Answer: ([解答を表示する](#))

VMware vRealize Operations では、ポリシーによってオブジェクトの分析および管理方法が決定されます。これらには、メトリック収集、アラート定義、症状、推奨事項などの設定が含まれます。管理者が運用ポリシーで一部の仮想マシン メトリックを無効にすると、その特定のポリシーに割り当てられたオブジェクトのみが影響を受けます。この変更は他のポリシーに影響を与えたり、すべてのオブジェクトにグローバルに影響を与えたりすることはありません。これは、ポリシーが階層構造になっており、子ポリシーによってオーバーライドされない限り、親ポリシーから設定を継承するためです。この展示では、Production ポリシーと TestDev ポリシーは両方も、Company のデフォルト ポリシーの子ポリシーであり、これは vSphere ソリューションのデフォルト ポリシーの子ポリシーであり、Base 設定の子ポリシーです。

したがって、Production ポリシーに加えられた変更は、そのポリシーに割り当てられたオブジェクトにのみ適用され、TestDev ポリシーやその他のポリシーに割り当てられたオブジェクトには適用されません。参考文献:

- 「vRealize Operations ポリシー」 R.1-2)
- ポリシーの管理 3-4 ページ)
- メトリクス収集の無効化 5 ページ)

最新問題: 54

アラートから自動アクションをトリガーできるようにするには、どの 2 つの条件を満たす必要がありますか? (2つお選びください。)

- A. アクティブなポリシー内では、アラート定義の自動設定をデフォルト設定のままにすることができます。
- B. アクティブなポリシー内で、アラート定義の自動設定を有効に設定する必要があります。
- C. アラートには推奨事項を添付する必要はありません。
- D. アラートには推奨事項が必要ですが、症状の定義は必要ありません。
- E. アラートには推奨事項が添付されている必要があります。

Answer: B,E ([メッセージを残す](#))

『VMware vRealize Operations User Guide1』によると、自動アクションは、アラートがトリガーされたときに自動的に実行できる事前定義またはカスタム アクションです。自動アクションは、アラートの原因となった問題を解決または防止したり、関連する関係者に通知したりするのに役立ちます。アラートから自動アクションをトリガーできるようにするには、次の 2 つの条件を満たす必要があります。

アクティブなポリシー内で、アラート定義の自動設定を有効に設定する必要があります。これにより、アラート基準が満たされた場合にアラート定義で自動アクションをトリガーできるようになります。デフォルトでは、自動設定はすべてのアラート定義に対して無効になっており、管理者が手動で有効にする必要があります。

アラートには推奨事項が添付されている必要があります。推奨事項は、アラートをトリガーした問題の解決または防止に役立つ推奨アクションです。推奨事項には、ドキュメント内の関連トピックへのリンクまたは外部 URL を含めることができます。推奨事項は、システムまたはユーザーによって実行できる自動アクションに関連付けることもできます。アラート定義には 1 つ以上の推奨事項を含めることができますが、自動アクションに関連付けることができるのはそのうちの 1 つだけです。

したがって、正解は B です。

アクティブなポリシー内で、アラート定義の自動設定を有効に設定する必要があります。そして E. アラートから自動アクションをトリガーできるようにするには、これら 2 つの条件を満たす必要があるため、アラートには推奨事項が添付されている必要があります。参考文献:

1: VMware vRealize Operations ユーザー ガイド、

<https://docs.vmware.com/en/vRealize-Operations/8.5/vrealize-operations-manager-85-user-guide.pdf>、21 ~ 22 ページ、25 ~ 26 ページ、29 ~ 30 ページ

最新問題: 55

管理者は、vRealize Operations が収集しないアプリケーション関連のデータ (メトリック) を仮想マシン (VM) から取得したいと考えています。管理者はタスクを完了するためにカスタム スクリプトを作成する必要があります。エージェントのインストールに必要なすべてのコンポーネントが環境にデプロイされました。

管理者はこの目標をどのように達成すべきでしょうか?

- A. Telegraf エージェントをインストールし、適切なスクリプトを VM に配置します。次に、VM のエージェントの管理の場所から呼び出します。
- B. End Point Operations Management エージェントをインストールし、適切なスクリプトを VM に配置します。次に、VM のエージェントの管理の場所から呼び出します。
- C. Telegraf エージェントをインストールし、適切なスクリプトを vRealize Operation Manager に配置して、VM のエージェントの管理の場所から呼び出します。
- D. End Point Operations Management エージェントをインストールし、適切なスクリプトを vRealize Operation Manager に配置して、VM のエージェントの管理の場所から呼び出します。

Answer: [\(解答を表示する\)](#)

vRealize Operations が収集しないアプリケーション関連のデータ (メトリック) を VM から取得するには、管理者は End Point Operations Management エージェントのカスタム スクリプト機能を使用できます。カスタム スクリプト機能を使用すると、管理者はエンドポイント VM でカスタム スクリプトを実行し、メトリックとして使用できるカスタム データを収集できます。管理者は、End Point Operations Management エージェントを VM にインストールし、適切なスクリプトを VM に配置して、vRealize Operations の VM のエージェントの管理の場所からスクリプトを呼び出すようにエージェントを構成する必要があります。スクリプト メトリックは、エンドポイント VM ごとに 1 つのオブジェクトであるカスタム スクリプトと呼ばれるオブジェクトの下に作成されます。管理者は、[すべてのメトリック] タブで特定のメトリックの出力を表示できます

1. Telegraf エージェントはカスタム スクリプトの監視には使用されませんが、事前定義されたブ

ログインを使用したアプリケーションの監視に使用されます2。スクリプトは vRealize Operation Manager ではなく、エンドポイント VM に配置する必要があります。参考資料: 1: カスタム スクリプト 2: アプリケーション監視

最新問題: 56

管理者は、vRealize Operations を使用して仮想化環境で非認証情報ベースのサービス検出に取り組んでいます。

仮想マシンの基本要件はどのパッケージですか？

- A. VMware ツール
- B. リモート コレクタ
- C. .NET
- D. Telegraf エージェント

Answer: ([解答を表示する](#))

最新問題: 57

組織の所有者が、VMware Cloud Services を利用するために新しいユーザーを招待しました。招待が取り消されるまでの有効期間はどれくらいですか？

- A. 1 時間
- B. 3 日
- C. 7 日間
- D. 24 時間

Answer: C ([メッセージを残す](#))

最新問題: 58

vRealize Operations のサイジング ガイドラインに従って、インストール中にサポートされる 3 つのノード構成はどれですか？ (3つお選びください。)

- A. 大
- B. 小
- C. 小さい
- D. 非常に大きい
- E. 中
- F. 制限なし

Answer: A,D,E ([メッセージを残す](#))

vRealize Operations のサイジング ガイドラインによれば、インストール時にサポートされるノード構成は、Large、Very Large、Medium です。これらは、vRealize Operations によって監視されるオブジェクトとメトリックの数に基づいて VMware が提供するデフォルト構成です。各構成には、vCPU、メモリ、ディスク容量、およびネットワークの要件が異なります。管理者は、既存のインフラストラクチャと環境の予想される成長に最適な構成を選択できます1。

他のオプションは、インストール中にサポートされるノード構成ではありません。Tiny および Small は、vRealize Operations 8.x 以降のバージョンでは有効な構成ではありません。これらの構

成は vRealize Operations 6.x および 7.x バージョンで利用できましたが、容量とパフォーマンスが制限されているため、運用環境には推奨されません2。[制限なし] は構成オプションではなく、vRealize Operations クラスタに追加できるノード数に上限がないことを示すステートメントです。ただし、ノードの数は、ノード構成、ネットワーク遅延、およびデータソースの種類によって異なります3。

参考資料: 1: vRealize Operations 8.0.x サイジング ガイドライン (75162) - VMware 2: vRealize Operations Manager 7.5 サイジング ガイドライン (67752) 3: vRealize Operations 8 - VMware Docs

最新問題: 59

アラート推奨の特徴は何ですか?

- A. 監視対象システム内のオブジェクトを更新したり、オブジェクトに関するデータを読み取りません。
- B. これは、アラートをトリガーした問題を解決するための考えられる解決策です。
- C. 対応するナレッジベース記事に常にリンクされています。
- D. アラートの推奨事項は、インストールされた管理パックの一部としてのみ使用できるため、カスタムの推奨事項を作成することはできません。

Answer: [\(解答を表示する\)](#)

アラートの推奨事項は、生成されたアラートが示す問題を解決するためにユーザーに提供する修復オプションです。監視対象環境内のオブジェクトの問題を示すアラート定義を追加する場合は、関連する推奨事項を追加します。推奨事項は、ユーザーへの指示、他の情報や指示ソースへのリンク、またはターゲット システム上で実行される vRealize Operations アクションなどです1。アラートの推奨事項は常にナレッジベースの記事にリンクされているわけではなく、user2 によって作成または変更される可能性があります。参考資料: 1: vRealize Operations でのアラートの定義 2: ユーザー シナリオ: vRealize Operations Manager でのアラートの監視と処理

最新問題: 60

スーパーメトリックとして適用できる 2 つのオプションはどれですか? (2つお選びください。)

- A. 2 つの定義されたタイムスタンプ間の各 VM の CPU 使用率の差
- B. 関数内の数学的計算で使用できる文字列演算子
- C. vSphere クラスタ内の非 Windows VM の数
- D. ESXi ホスト内の VM の平均 SCSI 数とディスク サイズ
- E. データセンター内の VM の平均 CPU 使用率

Answer: C,E ([メッセージを残す](#))

最新問題: 61

VMware Cloud Director テナントポータルで East/West ファイアウォールを有効にするには、どの 3 つの手順が必要ですか? (3つお選びください。)

- A. データセンターグループをクリックして、新しいデータセンターグループを作成します。
- B. Edge Gateways に移動し、Edge Gateway の 1 つでファイアウォールを有効にします。

- C. [ネットワーク]に移動し、[ネットワーク] セクション内のネットワークの1つで分散ファイアウォールを有効にします。
- D. データセンター グループ内の分散ファイアウォールをアクティブ化します。
- E. 顧客組織にログインし、テナント ポータルのネットワーキング セクションに移動します。
- F. NSX-T でファイアウォールを有効にする

Answer: B,C,E (メッセージを残す)

VMware Cloud Director テナント ポータルで East/West ファイアウォールを有効にするには、次の手順を実行する必要があります。

顧客組織にログインし、テナント ポータルのネットワーキング セクションに移動します。ここでは、VMware Cloud Director 組織の仮想データ センターで NSX Data Center for vSphere によって提供されるネットワーク機能にアクセスできます。

Edge Gateways に移動し、Edge Gateway の1つでファイアウォールを有効にします。これにより、North/South トラフィック強制および境界セキュリティ機能用の Edge Gateway ファイアウォール ルールを構成できるようになります。Edge Gateway で NAT、VPN、負荷分散などの他のサービスを有効にすることもできます。

「ネットワーク」に移動し、「ネットワーク」セクション内のネットワークの1つで分散ファイアウォールを有効にします。

これにより、東/西のトラフィック分離とアクセス制御のための分散ファイアウォール ルールを構成できるようになります。セキュリティ ポリシーとグループをネットワークとその中の仮想マシンに適用することもできます。

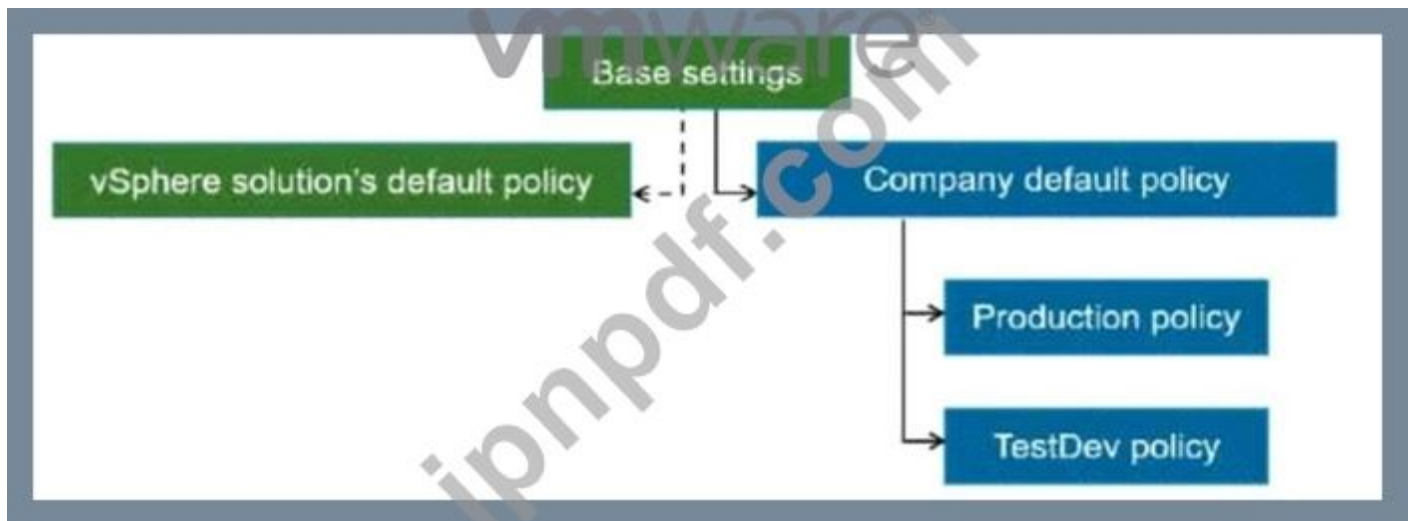
参考資料: VMware Cloud Director テナント ポータルの NSX Data Center for vSphere ファイアウォール構成。VMware Cloud Director テナント ポータルの使用開始

有効な **5V0-35.21** 問題集は GoShiken.com が提供された合格しやすい 5V0-35.21 試験問題集！ GoShiken.com が最新の **5V0-35.21** 試験問題集を提供しています。GoShiken.com 5V0-35.21 試験問題は最新で、解答が正確でございます。最新の GoShiken.com 5V0-35.21 問題集をゲットする人はこちら: <https://www.goshiken.com/VMware/5V0-35.21-mondaishu.html> (**15030%OFF**問題集溶と正解付きで **30%w**特別割引コード: **Freepdfdumps**)

最新問題: **62**

管理者は会社のデフォルト ポリシーを作成しました。さらに、会社のポリシーに基づいて、本番環境とテストおよび開発環境に個別のポリシーが作成されました。

展示を参照してください:



実稼働ポリシーで一部の仮想マシンのメトリクスを無効にすると、どのような影響がありますか？

- A. Production ポリシーと TestDev ポリシーに割り当てられたオブジェクトが影響を受けます。
- B. 運用ポリシーに割り当てられたオブジェクトが影響を受けます。
- C. ポリシーでメトリクスを無効にすると、メトリクスがグローバルに無効になるため、すべてのオブジェクトが影響を受けます。
- D. ポリシーでメトリクスを無効にできないため、影響はありません。

Answer: B ([メッセージを残す](#))

最新問題: 63

管理者は、2つの異なるカスタムクラウドプロバイダーでホストされているワークロードの実行コストを比較する必要があります。

管理者はどの手順を実行する必要がありますか？

- A. カスタムクラウドプロバイダーをクラウドアカウントとして追加します。
- B. What-if 分析を実行するときに価格を手動で入力します。
- C. 2つの新しい価格設定カードを作成します。
- D. 2つのカスタムクラウドプロバイダーを追加します。

Answer: C ([メッセージを残す](#))

2つの異なるカスタムクラウドプロバイダーでホストされているワークロードの実行コストを比較するには、管理者は vRealize Operations で2つの新しい価格カードを作成する必要があります。価格カードは、コンピューティング、ストレージ、ネットワーク、サービスなどのクラウドリソースのコストを定義するテンプレートです。カスタムクラウドプロバイダーごとに1つずつ、2つの価格カードを作成することで、管理者はリソースタイプごとに価格を指定し、必要に応じて割引やマークアップを適用できます。管理者は、価格カードを使用して what-if 分析を実行し、ワークロードをカスタムクラウドプロバイダーに移行またはスケーリングするコストを比較できます。他のオプションは、2つの異なるカスタムクラウドプロバイダーでホストされているワークロードの実行コストを比較する場合には正しくありません。vRealize Operations は AWS、Azure、Google Cloud などのパブリッククラウドアカウントの追加のみをサポートしているため、カスタムクラウドプロバイダーをクラウドアカウントとして追加することはできません。

ん。what-if 分析を実行するときに価格を手動で入力するのは、リソースの種類とワークロードごとに毎回価格を入力する必要があるため、効率的ではありません。

管理者が価格カードを使用せずにクラウド リソースのコストをどのように定義するかが明確ではないため、2つのカスタム クラウド プロバイダーを追加することは有効なオプションではありません。参考資料: 価格カードの作成、さまざまなクラウド プロバイダーでのワークロードの実行コストの比較、What-If 分析

最新問題: 64

管理者は、2つのフォールト ドメインの2つのラックにわたる継続的可用性構成で vRealize Operations (vROps) クラスタをデプロイしました。数分間発生したネットワーク停止の後、管理者は、vROps 導入が依然として正常であることを確認する任務を負っています。彼らは、1つのクラスタが引き続き監視ノードに接続できることに注目しました。

停止の結果、どの2つのイベントが発生しますか? (2つお選びください。)

- A. ネットワークが復元されると、vROps クラスタは障害ドメインを自動的に戻します。
- B. 管理者は、他のフォールト ドメインを手動でオンラインにする必要があります。
- C. 管理者は vROps クラスタを再起動して再同期する必要があります。
- D. 1つの障害ドメインがオフラインになります。
- E. 両方のフォールト ドメインがオフラインになります。

Answer: A,D (メッセージを残す)

継続的可用性構成の vROps クラスタは2つのフォールト ドメインで構成されます。これらは、ラック全体またはサイト全体の障害に耐えることができる別個の物理的な場所です。フォールト ドメインには、プライマリ ノード、プライマリ レプリカ ノード、およびクラスタのデータと構成を保存および複製するデータ ノードが含まれます。監視ノードは3番目の場所に展開され、2つの障害ドメイン間のネットワーク接続を監視し、ネットワーク分離により両方の障害ドメインがマスター ノードの役割を引き受けるときに発生するスプリット ブレイン シナリオを防ぎます1。

2つのフォールト ドメイン間でネットワーク障害が発生すると、監視ノードが状況を検出し、データの不整合を避けるためにフォールト ドメインの1つをオフラインにします。引き続き監視ノードに接続できるフォールト ドメインはオンラインのまま、マスター ノードとして機能し続けます。監視ノードに接続できない障害ドメインはオフラインになり、要求の処理を停止します。オフライン障害ドメイン上の VM は、vSphere HA 機能によってオンライン障害ドメイン上で再起動されます1。

ネットワークの停止が解決され、2つのフォールト ドメイン間の接続が復元されると、vROps クラスタはオフラインのフォールト ドメインを自動的に戻します。オフラインのフォールト ドメインは、オンラインのフォールト ドメインからデータと構成を再同期し、通常の動作を再開します。管理者は、オフラインのフォールト ドメインを手動でオンラインにしたり、vROps クラスタを再起動して再同期したりする必要はありません1。

したがって、停止の結果として発生する2つのイベントはAです。

ネットワークが復元されると、vROps クラスタは障害ドメインを自動的に戻します。D.

1つのフォールト ドメインがオフラインになります。

参考資料: 1: vRealize Operations の継続的可用性について

最新問題: 65

データセンター移行のシナリオを作成する際、管理者はサブスクリプション オプションを1年プランから従量課金制に変更することにしました。管理者は、新しいシナリオを実行せずにこのタスクを完了したいと考えています。

これはどのように達成すべきでしょうか？

- A. クラウドプロバイダーの変更
- B. 構成の編集
- C. 割引の編集
- D. 計画の変更

Answer: D (メッセージを残す)

データセンター移行シナリオのサブスクリプション オプションを変更するには、管理者はシナリオビルダーの [プランの変更] オプションを使用できます。このオプションを使用すると、管理者は新しいシナリオを実行せずに、選択したクラウド プロバイダーのプランタイプ、期間、割引を変更できます。[プランの変更] オプションでは、新しいサブスクリプション オプションに基づいてコストと節約の見積もりも更新されます。他のオプションは、サブスクリプション オプションの変更には関係ありません。[クラウド プロバイダーの変更] は、シナリオで別のクラウド プロバイダーに切り替えるために使用されます。[構成の編集] は、シナリオの CPU、メモリ、ストレージなどの構成設定を変更するために使用されます。割引の編集は、シナリオにカスタム割引率を適用するために使用されます。参考資料: 計画の変更、シナリオビルダー、データセンター移行のシナリオの作成

最新問題: 66

vRealize Operations で利用できる規制の標準ベースのコンプライアンス パックはどれですか？

- A. サーベンス・オクスリー法 (SOX)
- B. 一般的な脆弱性と暴露 (CVE)
- C. CIS セキュリティ標準
- D. 一般データ保護規則 (GDPR)

Answer: (解答を表示する)

vRealize Operations で利用できる規制の標準ベースのコンプライアンス パックは、CIS セキュリティ標準です。CIS セキュリティ標準は、IT システムとデータをサイバー攻撃から保護するための一連のベスト プラクティスと推奨事項です。CIS セキュリティ標準は、組織や個人にサイバーセキュリティのリソースとガイダンスを提供する非営利組織 Center for Internet Security (CIS) によって開発および維持されています¹。vRealize Operations Compliance Pack for CIS は、CIS 強化ガイドに照らして vSphere リソースを検証するためのアラート、ポリシー、レポートを提供します。このコンテンツを使用して次のリソースが検証されています: ESXi ホスト、仮想マシン、vCenter Server、分散スイッチ、分散ポート グループ、および分散ファイアウォール

2。vRealize Operations Compliance Pack for CIS は、VMware Marketplace³ からダウンロードし

てインストールできます。サーベンス オクスリー法 (SOX) (オプション A) は、vRealize Operations で利用できる規制の標準ベースのコンプライアンス パックではありません。SOX は、米国の公開会社の財務報告と監査を規制する連邦法です。SOX は、IT システムとデータを保護するための特定の技術ガイドラインやベンチマークを提供していません⁴。Common Vulnerabilities and Exposures (CVE) (オプション B) は、vRealize Operations で利用できる規制の標準ベースのコンプライアンス パックではありません。CVE は、一意の識別子と説明が割り当てられた、公的に知られているサイバーセキュリティの脆弱性とその危険性のリストです。CVE は、IT システムとデータを保護するための特定のセキュリティ標準や推奨事項を提供しません⁵。一般データ保護規則 (GDPR) (オプション D) は、vRealize Operations で利用できる規制の標準ベースのコンプライアンス パックではありません。GDPR は、欧州連合および欧州経済領域における個人の個人データの収集、処理、転送を規制する法的枠組みです。GDPR は、IT システムとデータを保護するための特定の技術ガイドラインやベンチマークを提供しません。参考文献:

- 1: CIS セキュリティ標準 - cisecurity.org、CIS、2021、[7]。
- 2: CIS 向け vRealize Operations Compliance Pack - VMware Marketplace、VMware、2021、1。
- 3: 『vRealize Operations Manager ユーザー ガイド』、VMware、2021 年、p. 237。
- 4: サーベンス オクスリー法 (SOX) - investopedia.com、Investopedia、2021 年、[8]。
- 5: 一般的な脆弱性と暴露 (CVE) - cve.mitre.org、MITRE、2021、[9]。
- [6]: 一般データ保護規則 (GDPR) - ec.europa.eu、欧州委員会、2021 年、[10]。
- [7]: CIS セキュリティ標準 - cisecurity.org、CIS、2021、[7]。
- [8]: サーベンス オクスリー法 (SOX) - investopedia.com、Investopedia、2021 年、[8]。
- [9]: 一般的な脆弱性と暴露 (CVE) - cve.mitre.org、MITRE、2021、[9]。
- [10]: 一般データ保護規則 (GDPR) - ec.europa.eu、欧州委員会、2021 年、[10]。

最新問題: 67

VMware Cloud Director テナント ポータルで East/West ファイアウォールを有効にするには、どの 3 つの手順が必要ですか? (3つお選びください。)

- A. Edge Gateways に移動し、Edge Gateway の 1 つでファイアウォールを有効にします。
- B. NSX-T でファイアウォールを有効にする
- C. 顧客組織にログインし、テナント ポータルのネットワーキング セクションに移動します。
- D. データ センター グループをクリックして、新しいデータ センター グループを作成します。
- E. データセンター グループ内の分散ファイアウォールをアクティブ化します。
- F. [ネットワーク] に移動し、[ネットワーク] セクション内のネットワークの 1 つで分散ファイアウォールを有効にします。

Answer: ([解答を表示する](#))

最新問題: 68

vRealize Operations のサイジング ガイドラインに従って、インストール中にサポートされる 3 つのノード構成はどれですか? (3つお選びください。)

- A. 制限なし

- B. 大
- C. 中
- D. 非常に大きい
- E. 小さい
- F. 小

Answer: B,C,F (メッセージを残す)

最新問題: 69

システム管理者には、次の要件を持つ容量ポリシーを作成するタスクが割り当てられています。カスタム グループ データベース サーバー」の下の ESXi クラスタには、オーバーコミット比 2:1 の CPU 割り当てモデルが必要です。現時点で環境内のすべての ESXi クラスタには、オーバーコミット比 4:1 の CPU 割り当てモデルの容量ポリシーが割り当てられています。

上記の容量ポリシーが正しく適用されるようにするには、どの 3 つのアクションを実行する必要がありますか？

(3つお選びください。)

- A. [容量] セクションで新しいポリシーを編集し、カスタム グループ データベース サーバー」でオブジェクトタイプをフィルターし、割り当てモデルを 2:1 に変更します。
- B. 新しいポリシー データベース サーバー」を作成し、それを基本設定から継承します。
- C. [グループとオブジェクト] セクションで新しいポリシーを編集し、カスタム グループ データベース サーバー」を選択します。
- D. 新しいポリシー データベース サーバー」を作成し、それを現在のデフォルト ポリシーから継承します。
- E. [グループとオブジェクト] セクションで新しいポリシーを編集し、オブジェクトタイプ クラスタ コンピューティング リソース」を選択します。
- F. [容量] セクションで新しいポリシーを編集し、クラスタ コンピューティング リソースでオブジェクトタイプをフィルターし、割り当てモデルを 2:1 に変更します。

Answer: A,C,D (メッセージを残す)

デフォルトのポリシーとは異なる CPU 割り当てモデルを使用して ESXi クラスタのカスタムグループの容量ポリシーを作成するには、次の手順が必要です。

新しいポリシー データベース サーバー」を作成し、それを現在のデフォルト ポリシーから継承します。これにより、カスタム group1 用にカスタマイズできるデフォルト ポリシーのコピーが作成されます。

グループとオブジェクト」セクションで新しいポリシーを編集し、カスタム グループ データベース サーバー」を選択します。これにより、新しいポリシーがカスタム グループに適用され、group1 内のオブジェクトのデフォルト ポリシーが上書きされます。

[容量] セクションで新しいポリシーを編集し、カスタム グループ データベース サーバー」でオブジェクトタイプをフィルターし、割り当てモデルを 2:1 に変更します。これにより、カスタムグループの CPU 割り当てモデルが要件に一致するように変更されます2。

参考資料: = 2 管理対象環境の容量の最適化 - VMware ドキュメント、1 ポリシー - VMware ドキュメント

最新問題: 70

管理者は仮想化環境で再利用オプションに取り組んでおり、パワーオフ VM (SRV-A) が再利用の候補として表示されていることを発見しました。

管理者が SRV-A を調査したところ、サーバーは月の最初の 3 日間のみ使用され、電源がオンになることがわかりました。管理者は、このサーバーが再利用の候補として扱われないようにする必要があります。

この目標を達成するために管理者はどのようなアクションを取る必要がありますか？

- A. パワーオフされたときに vCenter から SRV-A の要求を解除し、パワーオンする前に要求します。
- B. SRV-A と仮想ディスクを vCenter から削除します。
- C. アクションは必要ありません。vCenter では SRV-A として残るはずですが。
- D. SRV-A を再利用から除外します。

Answer: D (メッセージを残す)

管理者は、vRealize Operations Manager の再利用機能を使用して、十分に活用されていない仮想マシンまたは電源がオフになっている仮想マシンからリソースを特定し、再利用することができます。ただし、一部の VM (この場合は SRV-A など) には、電源がオフになったり、長期間アイドル状態になったりする正当な理由がある場合があります。このような VM が再利用の候補として表示されないように、管理者はそれらの VM を再利用アクションから除外できます。これを行うには、[再利用] 画面で VM を選択し、[VM を除外] ボタン 1 をクリックします。あるいは、管理者は再利用設定をカスタマイズして、電源オフ、アイドル、スナップショット、孤立したディスク VM を識別する基準を調整することもできます²。参考資料: 1: 再利用アクションの実行 2: 再利用設定

最新問題: 71

管理者はマルチサイト展開を構成および管理しています。

どの協会会員ステータスが無効なステータスですか？

- A. アクティブ
- B. 到達不能
- C. 非アクティブ
- D. 非対称

Answer: C (メッセージを残す)

最新問題: 72

vROps ユーザー インターフェイス (UI) にアクセスできない問題が発生したため、システム管理者はオンプレミス展開から vRealize Operations (vROps) サポート バンドルを作成する必要があります。

どのプロセスが正しい情報を正常に収集しますか？

- A. 各 vROps ノードにログインし、generateSupportBundle.py スクリプトを実行します。

B. SSH を使用してプライマリ vROps ノードにログインし、ファイルをコピー、圧縮、エクスポートします。

/var/log/messages の場所。

C. vROps UI を使用して完全なサポート バンドルを作成します。

D. vROps プライマリ ノードにログインし、generateSupportBundle.py スクリプトを実行します。

Answer: ([解答を表示する](#))

vRealize Operations サポート バンドルは、vRealize Operations の問題のトラブルシューティングに役立つログ ファイルと構成ファイルのコレクションです。サポート バンドルは、vRealize Operations UI または vRealize Operations ノードのコマンドラインインターフェイス (CLI) から作成できます¹²。

vRealize Operations UI にアクセスできない場合は、UI からサポート バンドルを作成できません。したがって、オプション C は有効なプロセスではありません。オンプレミス展開からサポート バンドルを作成するには、CLI メソッドを使用する必要があります³。

CLI からサポート バンドルを作成するには、SSH を使用して vRealize Operations ノードにログインし、generateSupportBundle.py スクリプトを実行する必要があります。このスクリプトはノードからログ ファイルと構成ファイルを収集し、ZIP 形式でサポート バンドルを作成します。その後、次の場所からサポート バンドルをダウンロードできます。

ノードの /storage/vcops/support ディレクトリ。

ただし、各 vRealize Operations ノードにログインしてスクリプトを個別に実行する必要はありません。プライマリ ノードにログインしてスクリプトを 1 回実行するだけで済みます。スクリプトはクラスター内のすべてのノードからファイルを自動的に収集し、単一のサポート バンドルを作成します。したがって、オプション A は必須の処理ではありません。必要なのは、プライマリ ノードにログインしてスクリプトを実行することだけです。

オプション B は、generateSupportBundle.py スクリプトを使用しないため、正しいプロセスではありません。の

/var/log/messages ファイルだけでは、vRealize Operations の問題をトラブルシューティングするための正しい情報を収集するには不十分です。スクリプトを使用して、関連するすべてのログ ファイルと構成ファイルをノードから収集する必要があります。

したがって、正しい情報を正常に収集するプロセスは、SSH を使用して vRealize Operations プライマリ ノードにログインし、generateSupportBundle.py スクリプトを実行することです。これはオプション D です。

参考文献:

1: vRealize Operations サポート バンドル - VMware ドキュメント 2: vRealize Operations サポート バンドルの作成 - VMware ドキュメント 3: コマンドラインインターフェイスからのサポート バンドルの作成 - VMware ドキュメント : コマンドラインインターフェイスからのサポート バンドルの作成 - VMware ドキュメント : コマンドラインインターフェイスからのサポート バンドルの作成 - VMware ドキュメント : コマンドラインインターフェイスからのサポート バンドルの作成 - VMware ドキュメント : [vRealize Operations Manager ユーザー ガイド] : [vRealize Operations

Manager インストールおよび構成ガイド] : [vRealize Operations Manager コンセプト ガイド] :
[vRealize Operations Manager 管理ガイド] : [vRealize Operations Manager カスタマイズおよび
拡張性ガイド] : [vRealize Operations Manager トラブルシューティング ガイド] : [vRealize
Operations Manager API プログラミング ガイド] :
[vRealize Operations Manager 認定試験ガイド]

最新問題: 73

vRealize Operations のレポートの特徴を正確に表す 2 つのステートメントはどれですか? (2つお
選びください。)

- A. レポート レイアウトには、目次、表紙、フッターを含めることができます。
- B. レポートのスケジュールは、時間ごと、日ごと、週ごと、月ごとに実行できます。
- C. レポート生成のスケジュールに使用できるのは、PDF タイプのレポートのみです。
- D. 生成がスケジュールされたレポートは、電子メール経由でのみ共有できます。
- E. レポートで使用できるデータ タイプはビューとダッシュボードのみです。

Answer: A,B (メッセージを残す)

最新問題: 74

管理 UI を使用した vRealize Operations クラスタのアップグレード中に、クラスタに障害が発生
し、ステータスがオフラインに変わりました。

この問題を管理し、インストール プロセスを続行するには、どの修復戦略を使用する必要があり
ますか?

- A. クラスターを手動でオフラインにし、[インストールの完了] を選択します。
- B. クラスターを手動でオフラインにし、[ロールバック インストール] を選択します。
- C. クラスターを手動でオンラインにし、[ロールバック インストール] を選択します。
- D. クラスターを手動でオンラインにし、[インストールの完了] を選択します。

Answer: (解答を表示する)

最新問題: 75

管理者は、ワークロードのパフォーマンスを最大化するためにワークロードの最適化を構成して
います。

リソース使用率がすべてのリソースに対して最大のヘッドルームを確保できるように、ワーク
ロードをプロアクティブに移動する構成はどれですか?

- A. バッファ
- B. 中程度
- C. 残高
- D. 統合

Answer: (解答を表示する)

ワークロードの最適化は、ハイブリッドおよびマルチクラウド環境の自動運転運用管理を可能に
する VMware vRealize Operations の機能です。人工知能と機械学習を使用して、アプリケーショ

ン、インフラストラクチャ、サービスのパフォーマンス、容量、コスト、構成を監視、分析、自動化します12。

ワークロードの最適化を使用すると、管理者はワークロードの最適化の目標を設定できます。これにより、vRealize Operations がクラスターとデータ センター間でリソース使用率のバランスを取る方法が定義されます。目標は次のオプションのいずれかになります34:

バランス: このオプションは、リソース使用率がすべてのリソースに対して最大のヘッドルームを確保できるように、ワークロードをプロアクティブに移動します。これは、vRealize Operations がクラスターとデータ センター全体にワークロードを均等に分散し、リソースの競合やオーバーコミットを回避しようとすることを意味します。このオプションは、ワークロードのパフォーマンスが最優先であり、需要の増加や急増に備えて追加のスペースが必要なシナリオに適しています。

中程度: このオプションは、リソース使用率が高いクラスターやデータセンターからワークロードを移動することで、ワークロードの競合を最小限に抑えます。これは、vRealize Operations がワークロードの需要を満たす十分な容量を確保することで、パフォーマンスの低下や SLA 違反のリスクを軽減しようとすることを意味します。このオプションは、ワークロードの可用性と信頼性が主な目標であり、リソースの不均衡や非効率がある程度許容されるシナリオに適しています。

統合: このオプションは、リソース使用率が最も低いクラスターとデータ センターにワークロードを移動することにより、ワークロードで使用されるクラスターとデータ センターの数をプロアクティブに最小限に抑えます。これは、vRealize Operations が未使用または十分に活用されていないリソースを解放することでリソース効率を最適化し、運用コストを削減しようとすることを意味します。このオプションは、ワークロードの統合とコストの最適化が主な目的であり、リソースの競合やオーバーコミットメントに対する許容度が高いシナリオに適しています。

したがって、リソース使用率がすべてのリソースに対して最大のヘッドルームを保証するようにワークロードをプロアクティブに移動する構成がバランスです。

参考文献:

1: vRealize Operations - VMware 2: vRealize Operations Manager ユーザー ガイド 3: ワークロードの最適化の詳細 - VMware ドキュメント 4: vRealize Operations Manager のワークロードの最適化: [vRealize Operations Manager インストールおよび構成ガイド]: [vRealize Operations Manager コンセプト ガイド]: [vRealize [Operations Manager 管理ガイド]: [vRealize Operations Manager カスタマイズおよび拡張性ガイド]: [vRealize Operations Manager トラブルシューティング ガイド]: [vRealize Operations Manager API プログラミング ガイド]: [vRealize Operations Manager 認定試験ガイド]

Valid 5V0-35.21 Dumps shared by GoShiken.com for Helping Passing 5V0-35.21 Exam!
GoShiken.com now offer the **newest 5V0-35.21 exam dumps**, the GoShiken.com 5V0-35.21 exam **questions have been updated** and **answers have been corrected** get the **newest** GoShiken.com 5V0-35.21 dumps with Test Engine here:

<https://www.goshiken.com/VMware/5V0-35.21-mondaishu.html> (150 Q&As Dumps, 30%OFF

Special Discount: **Freepdfdumps**)